

朝日村まち・ひと・しごと創生  
アンケート調査結果

令和元年 10 月

# 目 次

<b>1 .調査概要</b> .....	1
(1) 調査の目的 .....	1
(2) 調査の実施概要 .....	1
(3) 結果の見方 .....	1
<b>2 住民を対象とした「まち・ひと・しごと創生」に関する意識調査結果</b> .....	2
(1) 回答者の属性 .....	2
(2) I ターンの状態【I ターン経験者のみ】 .....	5
(3) 結婚について .....	7
(4) 出産について .....	9
(5) 子育てについて .....	11
(6) ワーク・ライフ・バランス .....	11
(7) 人口減少について .....	12
<b>3 転出者を対象とした「まち・ひと・しごと創生」に関する意識調査結果</b> .....	13
(1) 回答者の属性 .....	13
(2) 転出前の状況 .....	17
(3) 転出時の状況 .....	18
(4) 転出後の生活の変化 .....	20
(5) 卒業後の進路・就職について（学生のみ） .....	20
(6) 就労状況について（転出理由が「就職」「転職」および「就学」で現在就業中のみ） .....	22
(7) 転勤の状況について（転出理由が「転勤」のみ） .....	23
(8) 転勤の状況について（転出理由が「他の地域に家を購入した・建てた」「結婚」「子どもの就学」「親の転居」「親の介護など家族の面倒をみるため」「その他」のみ） .....	23
(9) 朝日村を訪れたことがない人に紹介したい村内の場所やイベント .....	24
<b>4 将来の進路や仕事に関する意識・希望アンケート調査結果</b> .....	25
(1) 回答者の属性 .....	25
(2) 進路 .....	26
(3) 仕事や働き方について .....	32
(4) 地域や暮らしについて .....	34

# 1.調査概要

## (1) 調査の目的

本調査は、朝日村版人口ビジョン、総合戦略策定に向けて「結婚・出産・子育て」「高校生の地元就職意向」に関する意識を把握するために、満20歳から39歳未満の住民、高校生および朝日村から他市町村へ転出した転出者に対して実施したものである。

## (2) 調査の実施概要

各調査の実施概要は下記のとおりである。

### 1) 住民を対象とした「まち・ひと・しごと創生」に関する意識調査

- ・ 調査対象者：満20歳から40歳以下の全住民（令和元年7月1日現在の住民基本台帳）
- ・ 対象者数：856名（H27：863名）
- ・ 調査実施方法：郵送による配布、回収
- ・ 実施期間：令和元年8月9日～8月23日
- ・ 回収数：206件（H27：252件）
- ・ 有効回収率：24.1%（H27：29.1%）

### 2) 転出者を対象とした「まち・ひと・しごと創生」に関する意識調査

- ・ 調査対象者：平成29年7月1日から令和元年6月30日までに朝日村から転出した満15歳以上60歳未満の転出者
- ・ 対象者数：198名（H27：199名）
- ・ 調査実施方法：郵送による配布、回収
- ・ 実施期間：令和元年8月9日～8月23日
- ・ 回収数：39件（H27：66件）
- ・ 有効回収率：19.7%（H27：33.2%）

### 3) 高校生を対象とした将来の進路や仕事に関する意識・希望アンケート調査

- ・ 調査対象者：村内に居住するすべての高校生
- ・ 対象者数：110名（H27：160名）
- ・ 調査実施方法：郵送による配布、回収
- ・ 実施期間：令和元年8月9日～8月23日
- ・ 回収数：45件（H27：55件）
- ・ 有効回収率：40.9%（H27：34.4%）

## (3) 結果の見方

- ・ 小数点第2位を四捨五入しているため、合計の数値が100%にならない場合がある
- ・ 設問によって総回答者数が異なるため、総数（以下、nという）は一定ではない
- ・ 設問などの表現は、一部省略している場合がある
- ・ 本レポートの集計結果は、速報値である

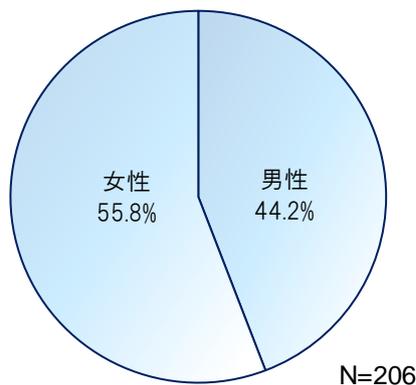
## 2 住民を対象とした「まち・ひと・しごと創生」に関する意識調査結果

### (1) 回答者の属性

- 回答者のうち、55.8%が女性、20歳代30歳代ほぼ半々である
- 住んでいる地域に住み続けることを親や親戚にすすめられたことがある回答者は12.1%にとどまっている
- 半数以上が「常勤（正規職員等）」で就労しており、次いで「パート・アルバイト」となっている
- 回答者の出身地は「朝日村」が60.2%である。次いで「朝日村以外の長野県」で30.6%である
- 回答者のうち37.4%が「Iターンや転校など」で朝日村に居住し始めている。「Uターン」は30.6%で、「朝日村にずっと住んでいる」のは26.2%である
- 朝日村での通算居住年数は10年以上の回答者が55.9%おり、比較的長期間、朝日村に居住している
- 回答者のうち46.1%に配偶者がおり、配偶者の66.3%は「正社員・正職員」として就労している

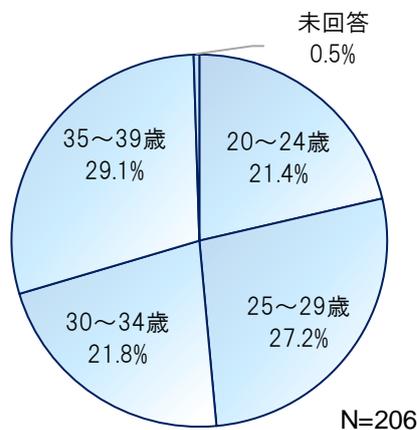
図表 1 性別

項目	人数	割合(%)
男性	91	44.2
女性	115	55.8
合計	206	100.0



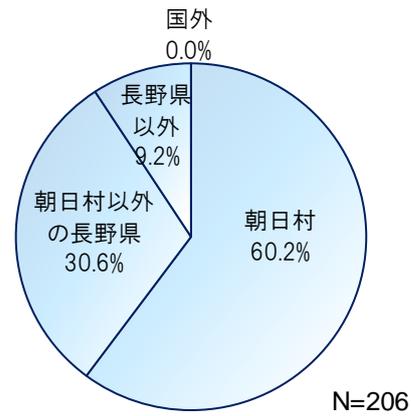
図表 2 年代

項目	人数	割合(%)
20～24歳	44	21.4
25～29歳	56	27.2
30～34歳	45	21.8
35～39歳	60	29.1
未回答	1	0.5
合計	206	100.0



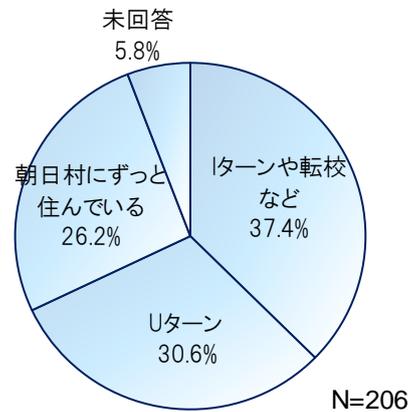
図表 3 出身地

項目	人数	割合(%)
朝日村	124	60.2
朝日村以外の長野県	63	30.6
長野県以外	19	9.2
国外		0.0
合計	206	100.0



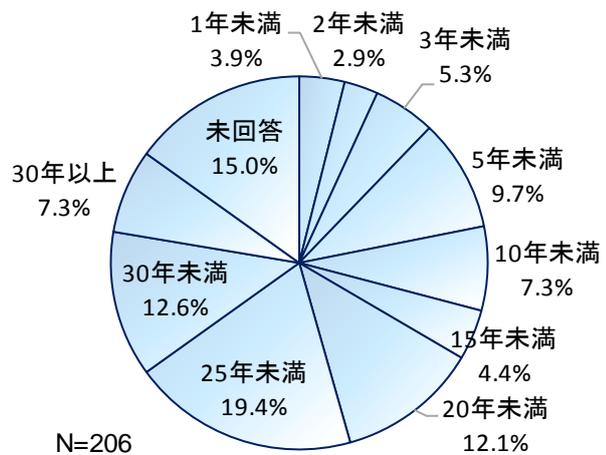
図表 4 朝日村での居住状況

項目	人数	割合(%)
Iターンや転校など	77	37.4
Uターン	63	30.6
朝日村にずっと住んでいる	54	26.2
未回答	12	5.8
合計	206	100.0

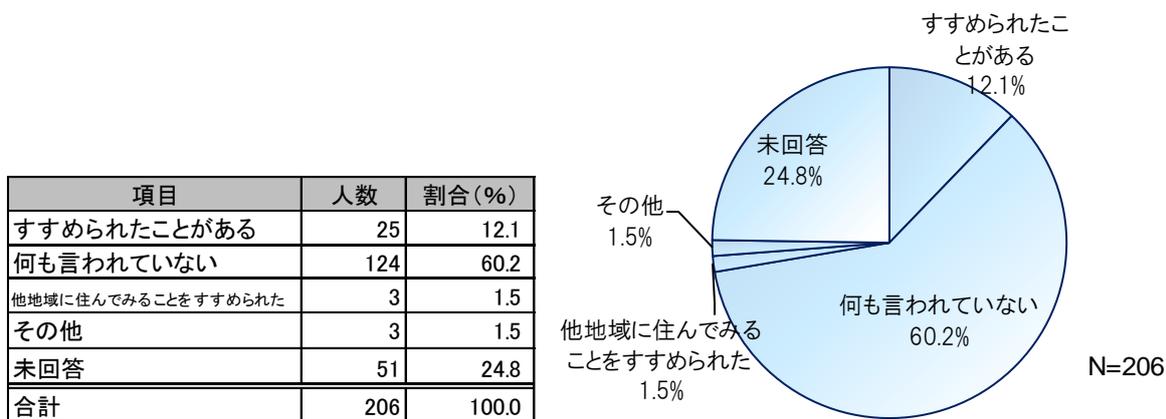


図表 5 朝日村での通算居住年数

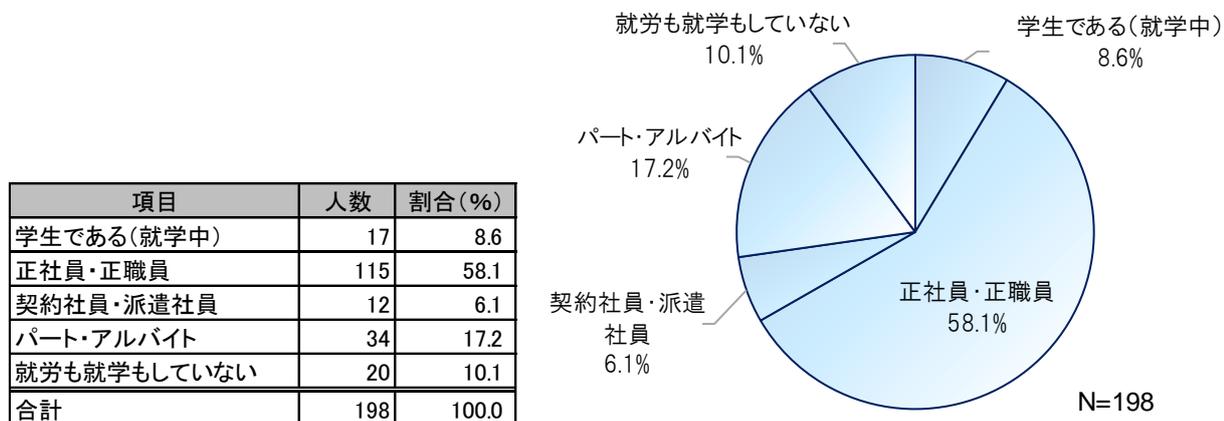
項目	人数	割合(%)
1年未満	8	3.9
2年未満	6	2.9
3年未満	11	5.3
5年未満	20	9.7
10年未満	15	7.3
15年未満	9	4.4
20年未満	25	12.1
25年未満	40	19.4
30年未満	26	12.6
30年以上	15	7.3
未回答	31	15.0
合計	206	100.0



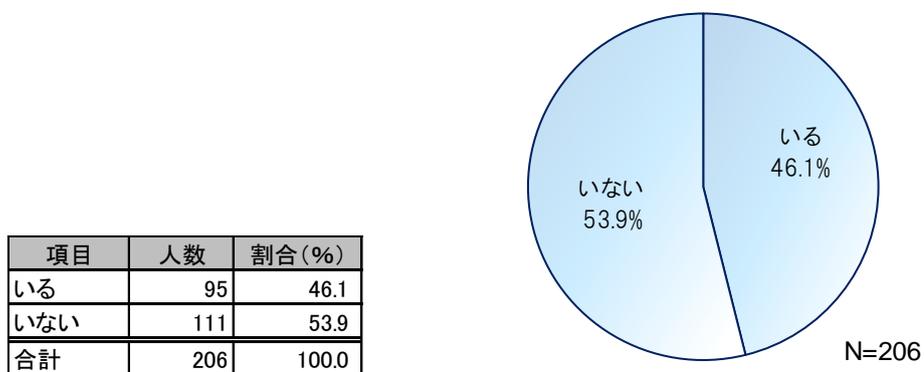
図表 6 住んでいる地域に住み続けることを親や親戚にすすめられたことがあるか



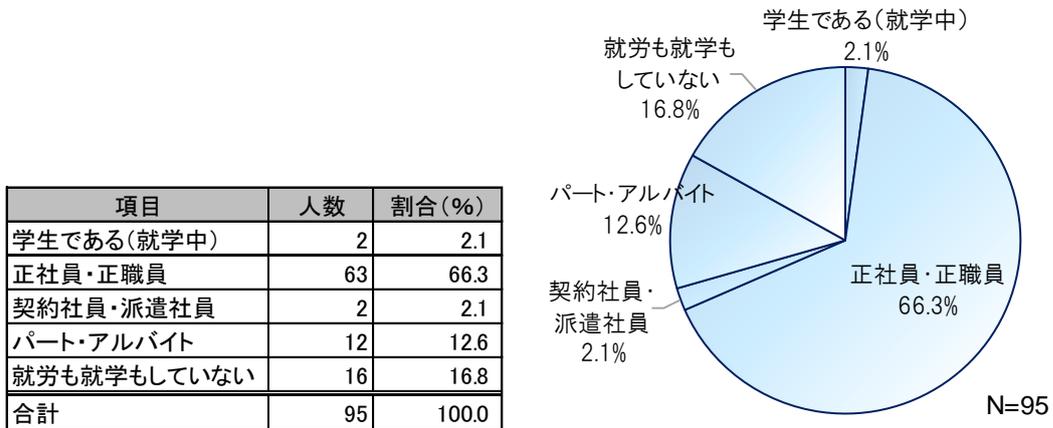
図表 7 就業形態



図表 8 配偶者有無



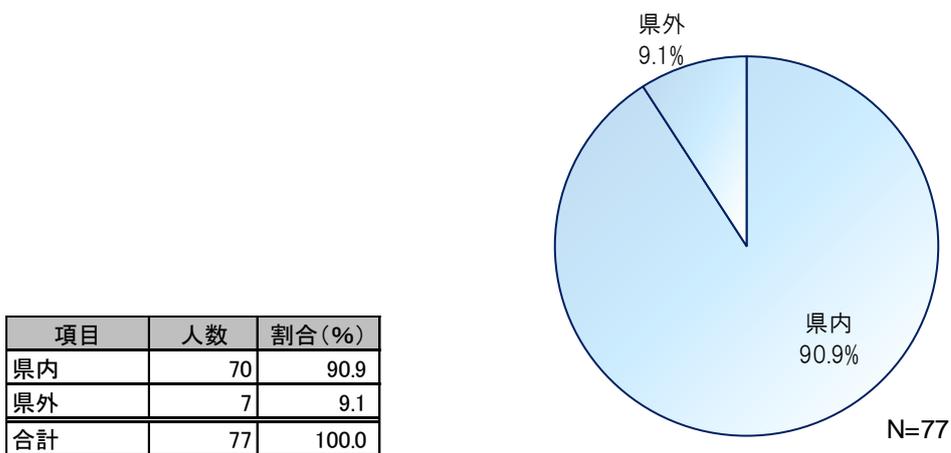
図表 9 配偶者の就業形態



(2) I ターンの状態【I ターン経験者のみ】

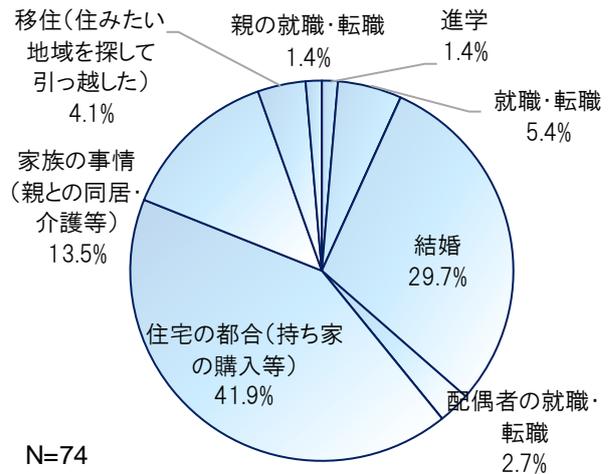
- I ターン経験者のうち、朝日村に転入する直前に住んでいた都道府県としては「長野県」が圧倒的に多く長野県の他市町村から転入している
- 転入のきっかけとしては「住宅の都合（持ち家の購入等）」が 41.9%でもっとも多く、次いで「結婚」となっている。他方、「進学」「就職・転職」など、進学や就労がきっかけとなっている割合は少ない
- 転入時やこれまでに困ったこととしては「移動・公共交通利用」「地域の風習や習慣」「雪や寒さなど冬の生活の厳しさ」が多くなっている

図表 10 転入直前の居住地

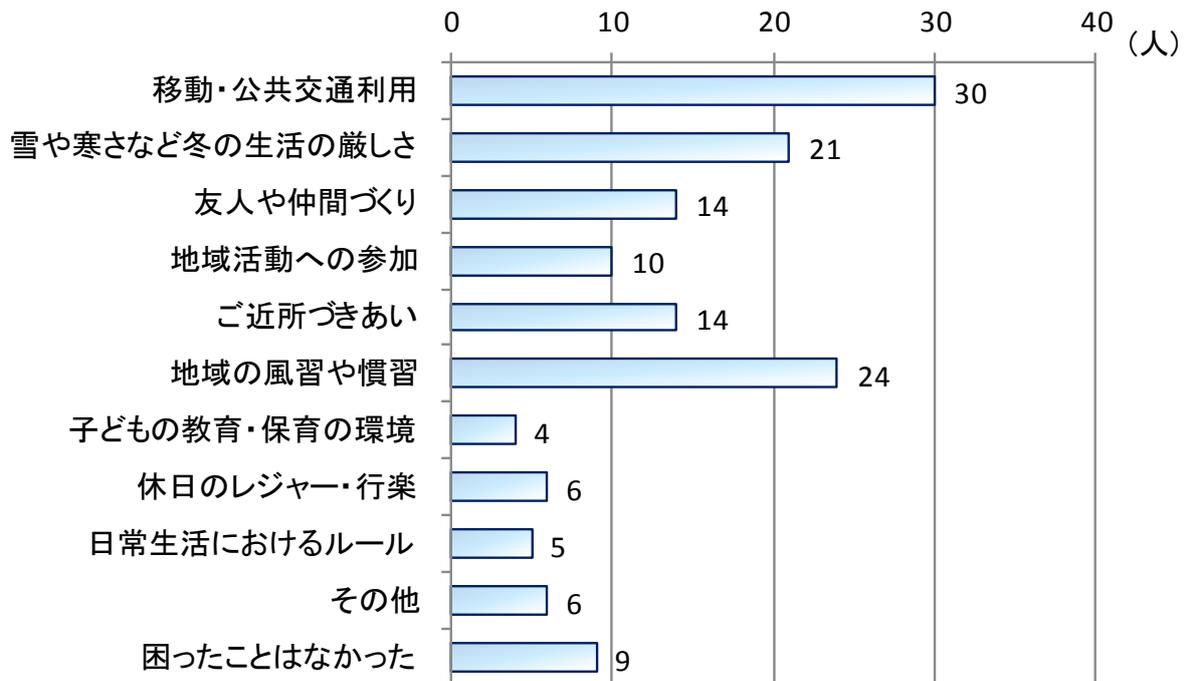


図表 11 転入のきっかけ

項目	人数	割合(%)
進学	1	1.4
就職・転職	4	5.4
転勤・配属	0	0.0
結婚	22	29.7
配偶者の就職・転職	2	2.7
配偶者の転勤・配属	0	0.0
住宅の都合(持ち家の購入等)	31	41.9
家族の事情(親との同居・介護等)	10	13.5
移住(住みたい地域を探して引っ越した)	3	4.1
親の就職・転職	1	1.4
親の転勤・配属	0	0.0
合計	74	100.0



図表 12 転入時やこれまでに困ったこと【複数回答】

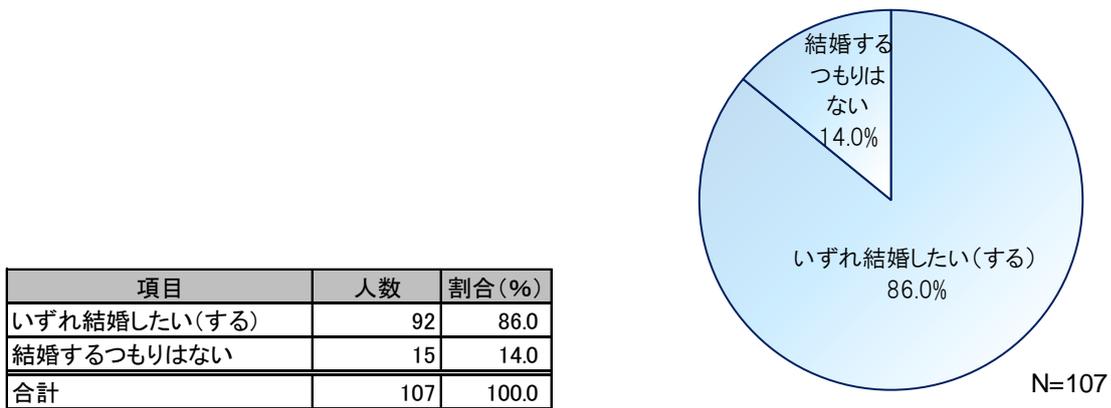


### (3) 結婚について

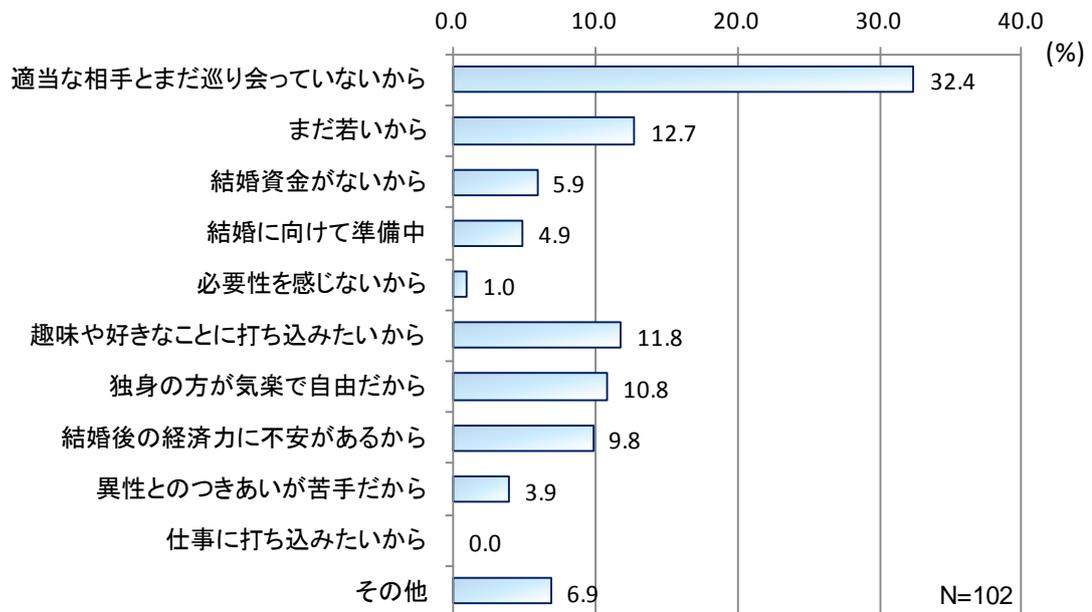
#### 1) 結婚についての考え、状況【独身の方が回答】

- 独身者のうちの 86.0%が、「結婚するつもりがある」と回答している
- 現在独身でいる理由としては、「適当な相手にめぐり会っていないから」がもっとも多く、次いで「まだ若いから」、「趣味や好きなことに打ち込みたいから」となっている

図表 13 結婚に対する意向



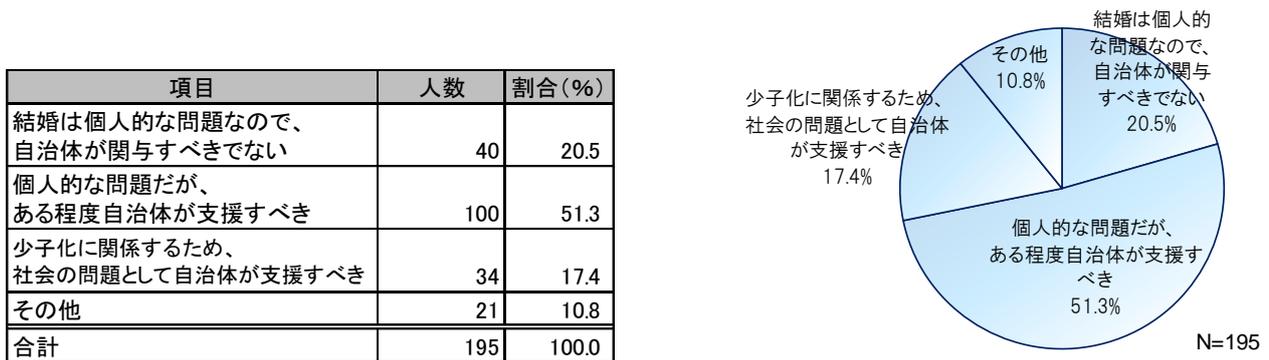
図表 14 独身でいる理由【いずれ結婚したい(する)のみ】



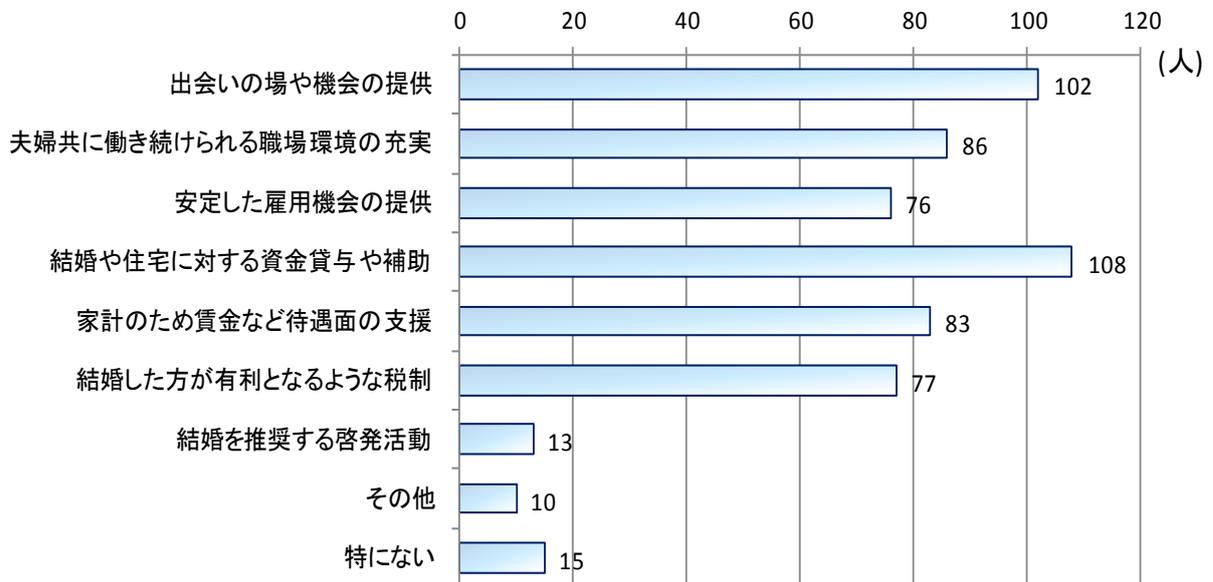
2) 自治体が行う婚活支援

- 自治体が行う婚活支援については「個人的な問題だが、ある程度自治体が支援すべき」と考えている者がもっとも多い
- 自治体に期待する支援策としては、「結婚や住宅に対する資金貸与や補助」がもっとも多く、次いで「出会いの場や機会の提供」「夫婦共に働き続けられる職場環境の充実」「家計のため賃金など優遇面の支援」と続く

図表 15 自治体が行う婚活支援に対する考え



図表 16 自治体に期待する支援策【複数回答】

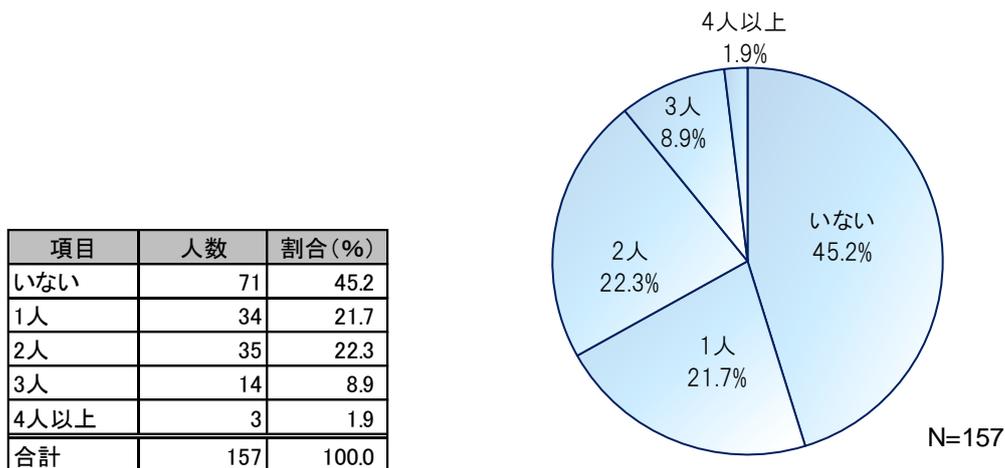


#### (4) 出産について

##### 1) 子どもの人数

- 子どもの人数は「いない (0人)」が45.2%であった。いる場合には、「2人」「1人」、「3人」となっている
- 最終的に持ちたい子どもの人数の平均は「1.58人」。一方、理想とする子どもの人数の平均は「2.30人」で、理想と現実に差があることがわかる

図表 17 子どもの人数



図表 18 最終的に持ちたい子どもの人数と理想とする人数

項目	人数	割合 (%)
0人	34	22.5
1人	23	15.2
2人	69	45.7
3人	23	15.2
4人以上	2	1.3
合計	151	100.0

項目	人数	割合 (%)
0人	6	3.4
1人	14	8.0
2人	85	48.3
3人	63	35.8
4人以上	8	4.5
合計	176	100.0

最終的に持ちたい子どもの人数

(回答者数=151人)

**平均：1.58人**

(H27:1.82人)

理想とする子どもの人数

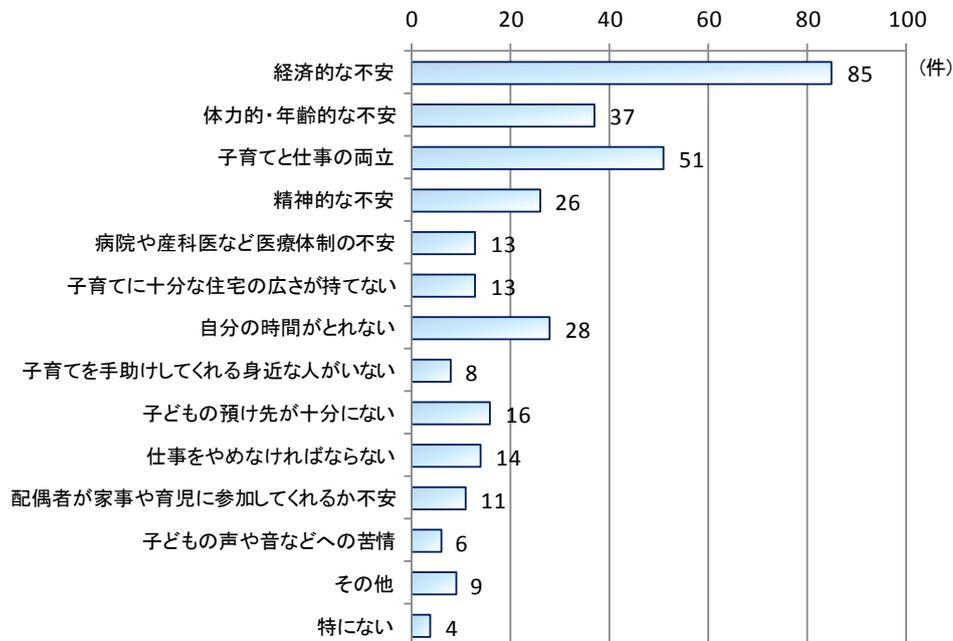
(回答者数=176人)

**平均：2.30人**

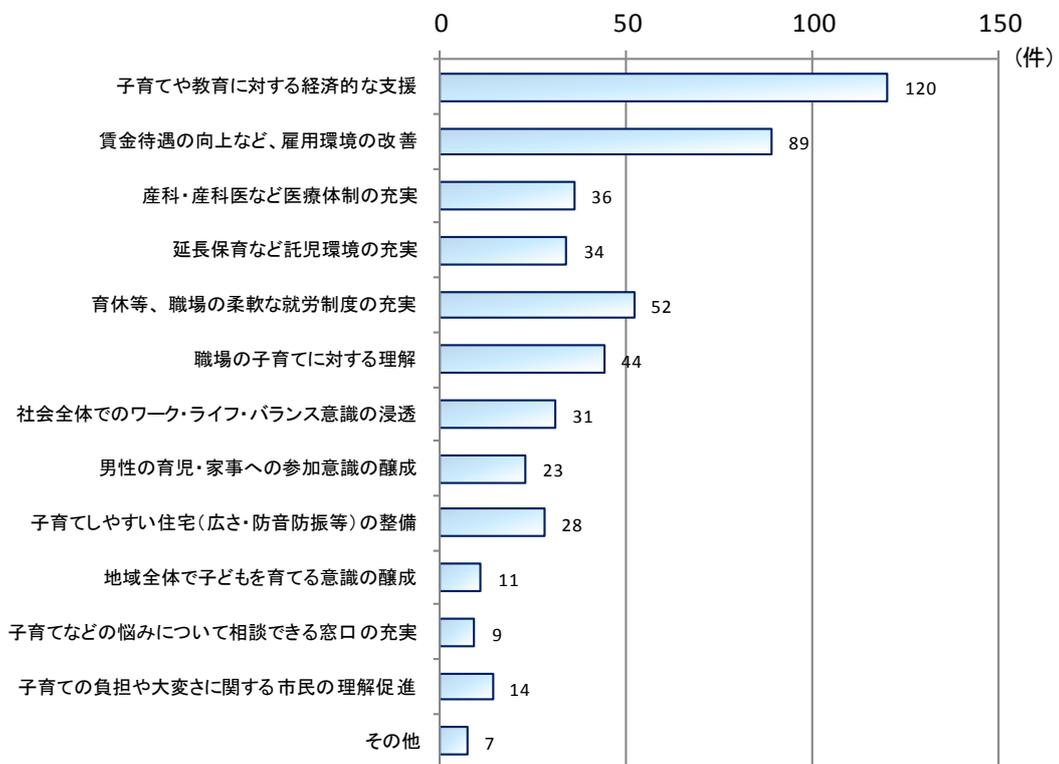
(H27:2.46人)

- 最終的に持ちたい子どもの人数が理想を下回っている場合、その理由としては、「経済的な不安」がもっとも多く、次いで「子育てと仕事の両立」「体力的・年齢的な不安」が続く
- 理想の人数に近づくための条件として、「子育てや教育に対する経済的な支援」が最多、次いで「賃金待遇の向上など、雇用環境の改善」「育休等、職場の柔軟な就労制度の充実」が続く

図表 19 理想より最終的に持ちたい子どもの人数が少ない理由【複数回答】



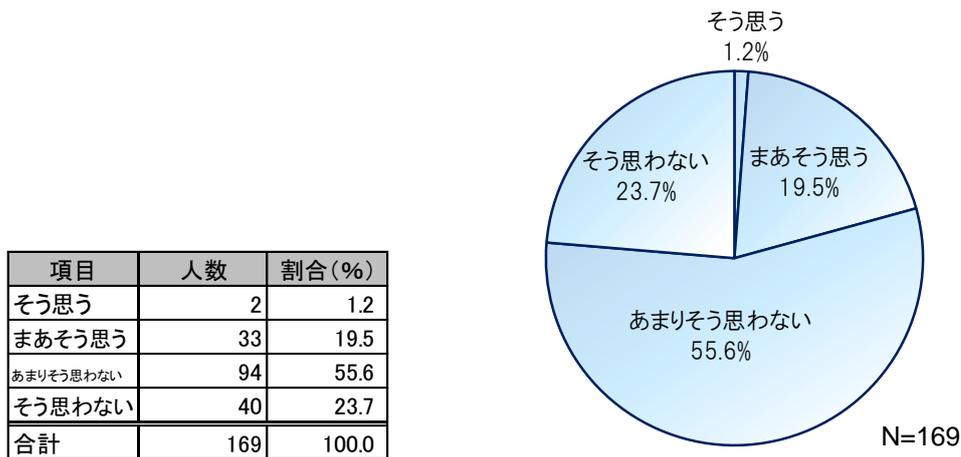
図表 20 理想に近づくために必要な条件【複数回答】



## (5) 子育てについて

- 現在の社会の子育てのしやすさについては、全体ではそう思うの割合（「そう思う」、「まあそう思う」をあわせた割合）が 20.7%である。一方、そう思わない割合（「そう思わない」「あまりそう思わない」をあわせた割合）が 79.3%である

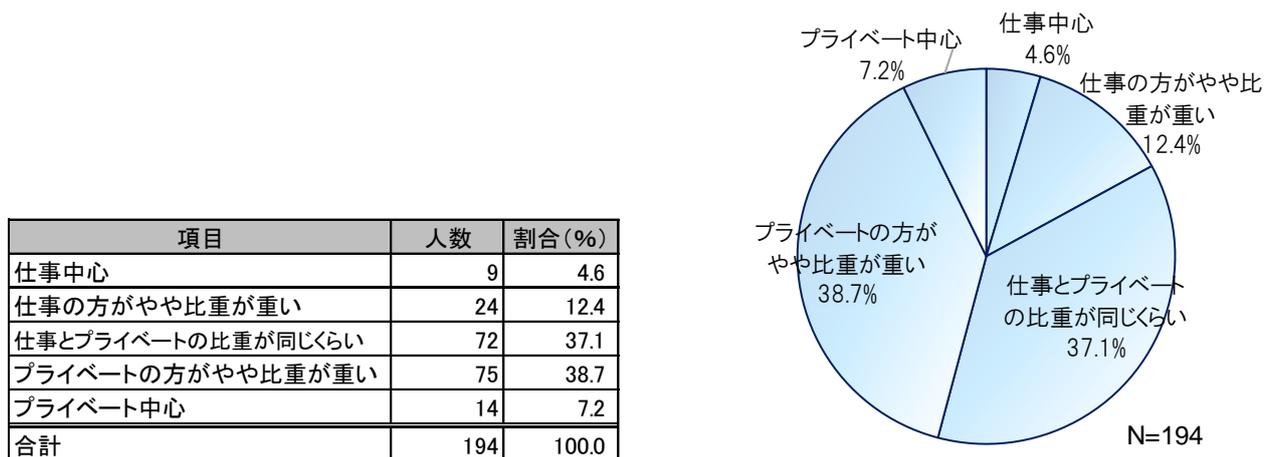
図表 21 現在の社会は生み育てやすいか



## (6) ワーク・ライフ・バランス

- 理想的な働き方としては、「プライベートの方がやや比重が重い」がもっとも多く 38.7%、次いで「仕事とプライベートの比重が同じくらい」が 37.1%となっている

図表 22 仕事と生活の調和は取れているか

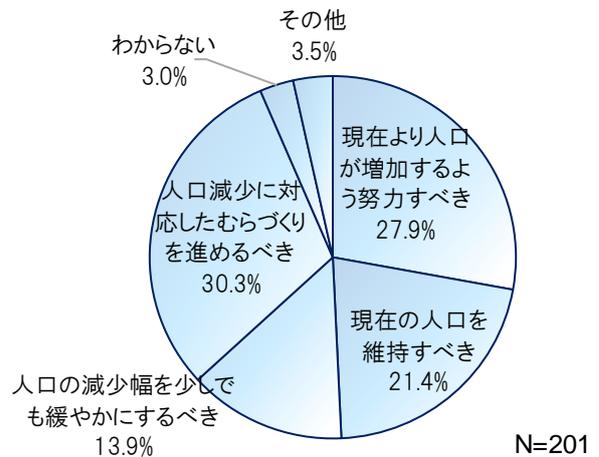


## (7) 人口減少について

- 人口減少に対する危機感については、「人口減少に対応したむらづくりをすすめるべき」が30.3%でもっとも多く、次いで「現在より人口が増加するよう努力すべき」と続いている
- 人口減少を克服し、活力ある朝日村を実現するために注力すべき施策については、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」がもっとも多く、次いで「新しい人のながれをつくる」「時代に合った地域づくり・安心なくらしを守る・地域間の連携」となっている

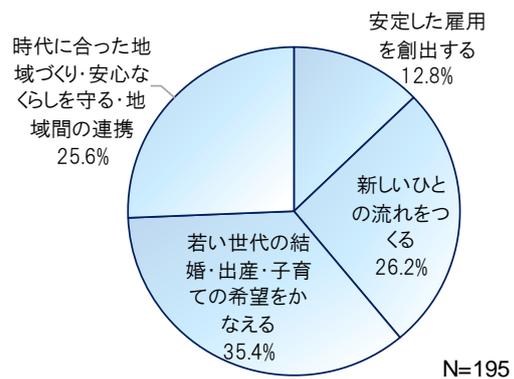
図表 23 人口減少に対する危機感

項目	人数	割合(%)
現在より人口が増加するよう努力すべき	56	27.9
現在の人口を維持すべき	43	21.4
人口の減少幅を少しでも緩やかにするべき	28	13.9
人口減少に対応したむらづくりを進めるべき	61	30.3
わからない	6	3.0
その他	7	3.5
合計	201	100.0



図表 24 活力ある朝日村のためにもっとも力を入れるべき施策

項目	人数	割合(%)
安定した雇用を創出する	25	12.8
新しいひとの流れをつくる	51	26.2
若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	69	35.4
時代に合った地域づくり・安心なくらしを守る・地域間の連携	50	25.6
合計	195	100.0



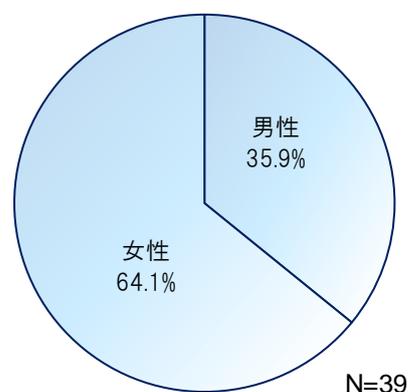
### 3. 転出者を対象とした「まち・ひと・しごと創生」に関する意識調査結果

#### (1) 回答者の属性

- 回答者の性別は男性が 35.9%、女性が 64.1%と女性の割合が多い
- 年代では 40 歳未満が 58.9%と若い世代が多い
- 出身地は「朝日村」が 63.2%でもっとも多く。次いで「朝日村以外の長野県」の 21.1%となっている
- 現在の住まいは「朝日村以外の長野県内」が 69.2%であり中信地域が多い
- 家族構成としては「夫婦」「ひとり暮らし」「自分／自分たち夫婦と子の二世帯」といった小規模世帯、核家族世帯の割合が多い
- 子どもがいない世帯が 56.8%である (25/45)
- 朝日村の実家の農業の状況については「自給的農家」が 31.6%、「農業はおこなっていない」「朝日村に実家はない」が 28.9%となっており、生業として農業を行っている転出者の実家は少ない
- 将来、朝日村に住むことを親や親戚からすすめられたことがあるかを確認したところ「何も言われていない」がもっとも多く 71.8%、次いで「すすめられたことがある」が 20.5%であった

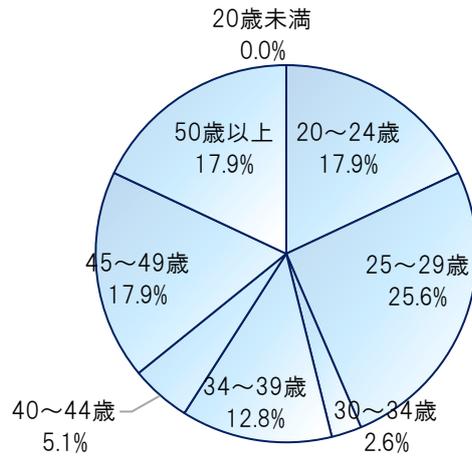
図表 25 回答者の性別

項目	人数	割合(%)
男性	14	35.9
女性	25	64.1
合計	39	100.0



図表 26 回答者の年代

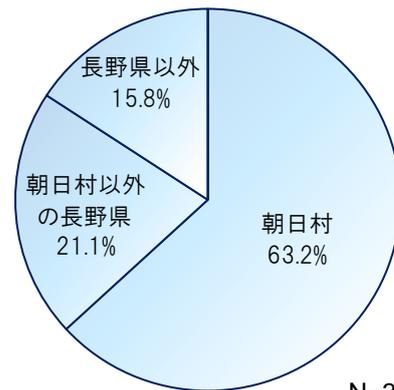
項目	人数	割合(%)
20歳未満	0	0.0
20～24歳	7	17.9
25～29歳	10	25.6
30～34歳	1	2.6
34～39歳	5	12.8
40～44歳	2	5.1
45～49歳	7	17.9
50歳以上	7	17.9
合計	39	100.0



N=39

図表 27 回答者の出身地

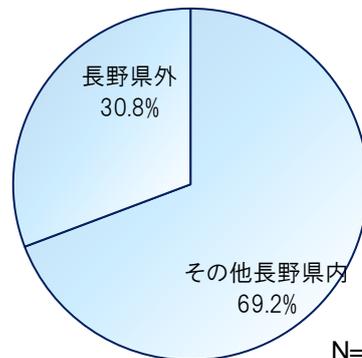
項目	人数	割合(%)
朝日村	24	63.2
朝日村以外の長野県	8	21.1
長野県以外	6	15.8
国外	0	0.0
合計	38	100.0



N=38

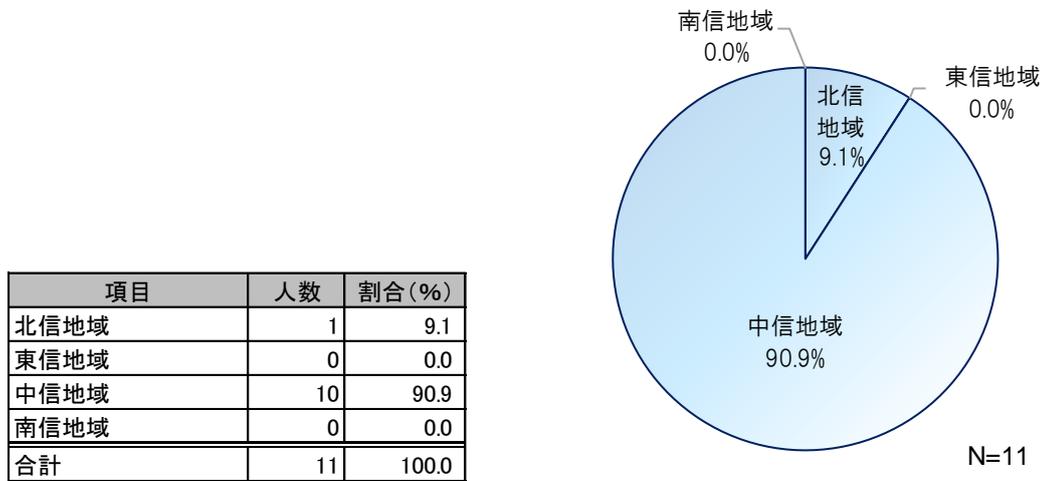
図表 28 現在の住まい

項目	人数	割合(%)
その他長野県内	27	69.2
長野県外	12	30.8
合計	39	100.0

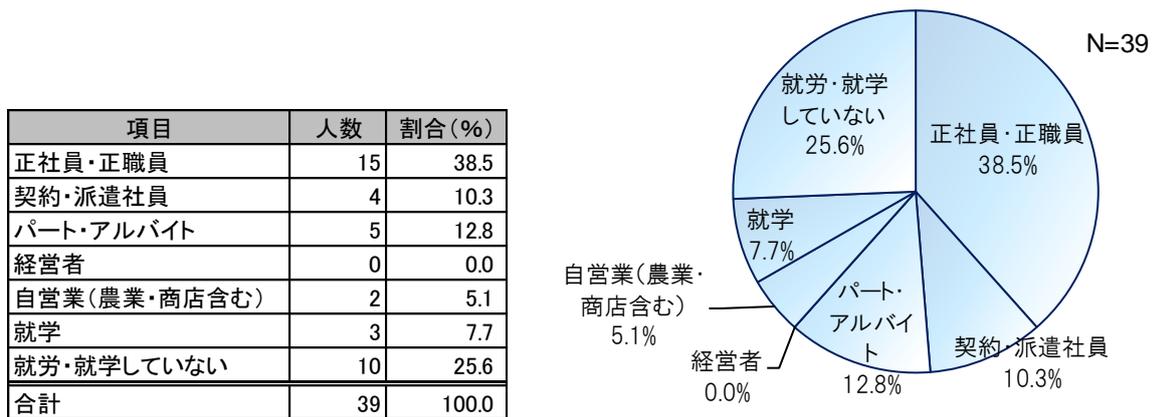


N=39

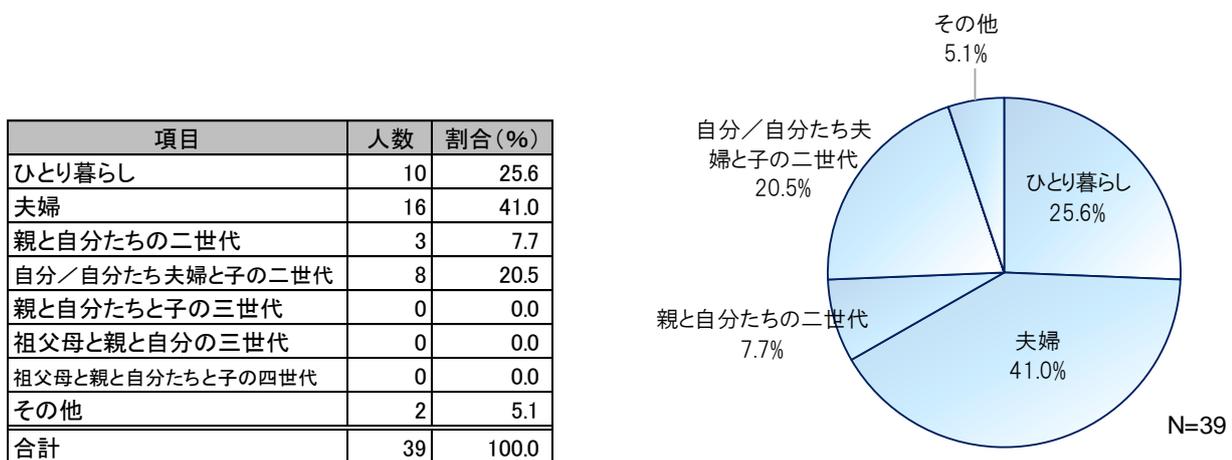
図表 29 現在の住まい（長野県内）



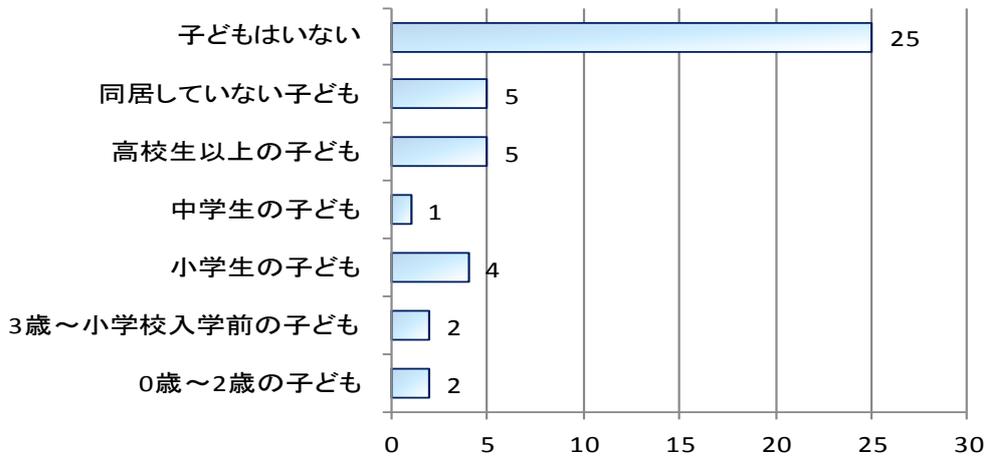
図表 30 現在の就労・就学状況



図表 31 家族構成

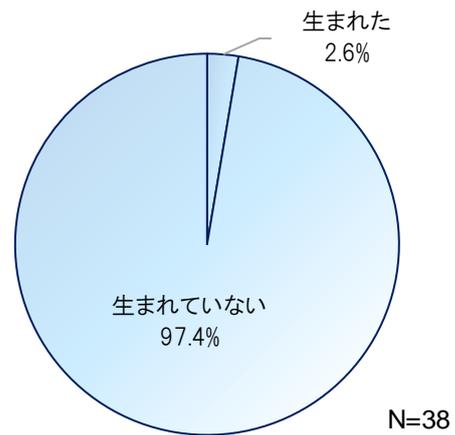


図表 32 子どもの人数



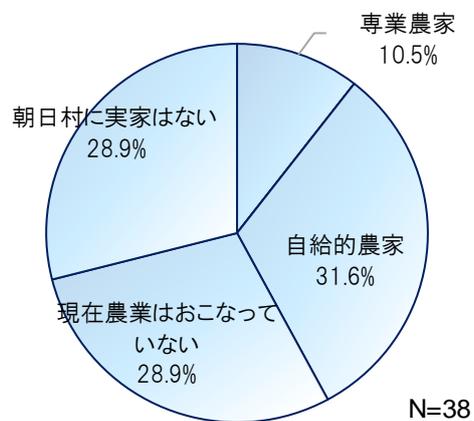
図表 33 朝日村から転出後、子どもは生まれたか

項目	人数	割合(%)
生まれた	1	2.6
生まれていない	37	97.4
合計	38	100.0

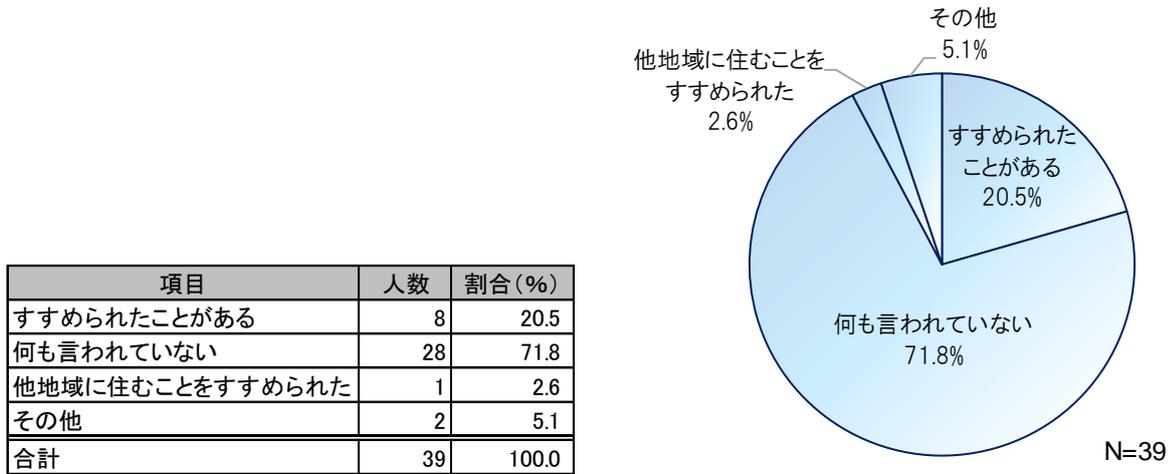


図表 34 朝日村の実家の農業の状況

項目	人数	割合(%)
専業農家	4	10.5
第一種兼業農家	0	0.0
第二種兼業農家	0	0.0
自給的農家	12	31.6
現在農業はおこなっていない	11	28.9
朝日村に実家はない	11	28.9
合計	38	100.0



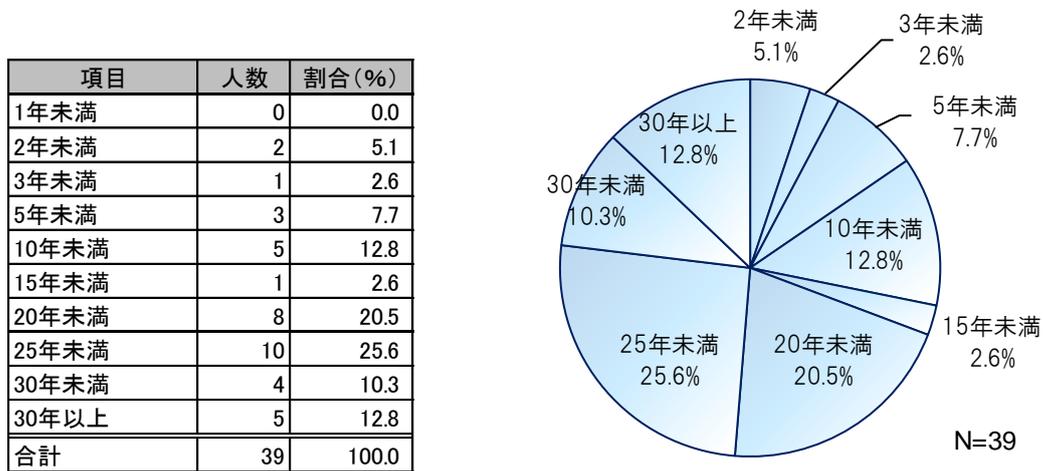
図表 35 将来、朝日村に住むことを親や親戚からすすめられたことがあるか



## (2) 転出前の状況

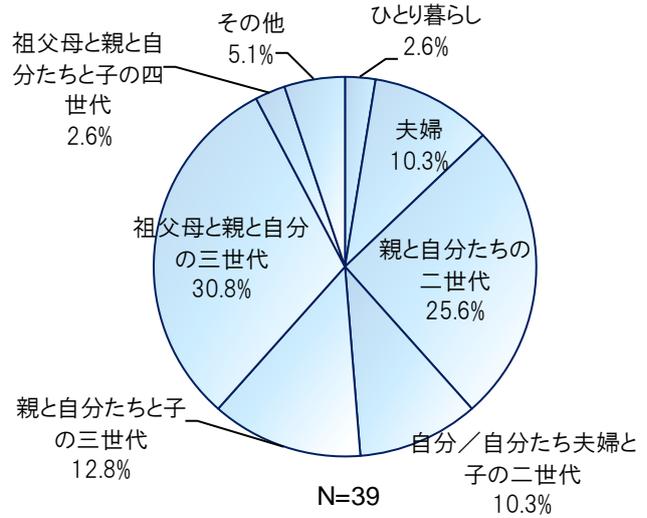
- 転出までの朝日村での居住通算年数は10年以上が71.8%となっている
- 転出前の世帯構成は三世帯以上が46.2%で約半数である
- 転出前の住居は「持ち家一戸建て」がもっとも多く、79.5%である

図表 36 朝日村での居住の通算年数



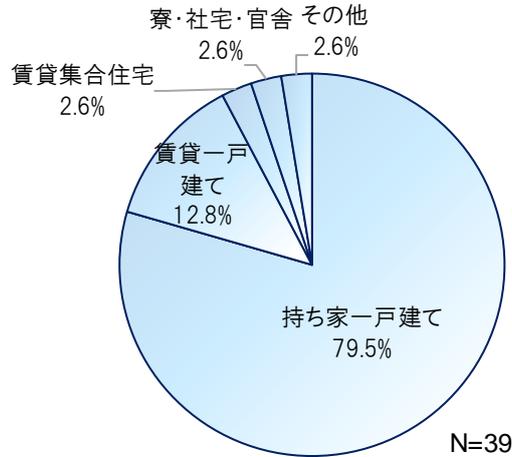
図表 37 朝日村居住時の世帯構成

項目	人数	割合(%)
ひとり暮らし	1	2.6
夫婦	4	10.3
親と自分たちの二世帯	10	25.6
自分／自分たち夫婦と子の二世帯	4	10.3
親と自分たちと子の三世帯	5	12.8
祖父母と親と自分の三世帯	12	30.8
祖父母と親と自分たちと子の四世代	1	2.6
その他	2	5.1
合計	39	100.0



図表 38 朝日村居住時の住居形態

項目	人数	割合(%)
持ち家一戸建て	31	79.5
持ち家集合住宅	0	0.0
賃貸一戸建て	5	12.8
賃貸集合住宅	1	2.6
寮・社宅・官舎	1	2.6
その他	1	2.6
合計	39	100.0

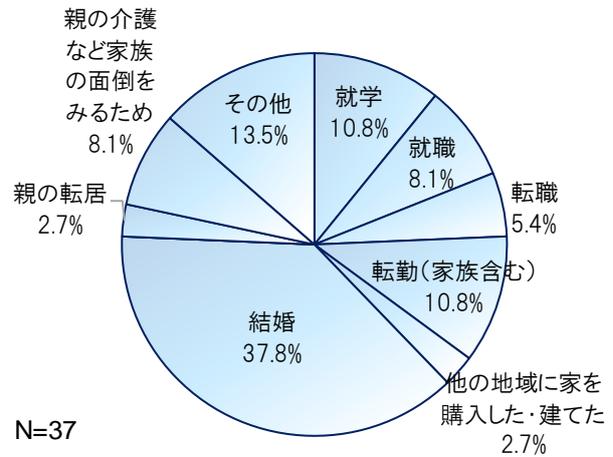


### (3) 転出時の状況

- 転出のきっかけは「結婚」がもっとも多く 37.8%、次いで「就学」「転勤」と続く
- 転出時の心情は、「できれば朝日村に住み続けたかった」 35.9%、「何も感じなかった」 35.9%で同じ割合であった
- 朝日村へのUターンの可能性は、「わからない」がもっとも多く 33.3%、「いずれ戻ってくるつもり」が 23.1%、「戻る可能性はある」が 17.9%である。「戻る可能性はない」が 25.6%であることを踏まえると、Uターンの可能性は比較的高いといえる

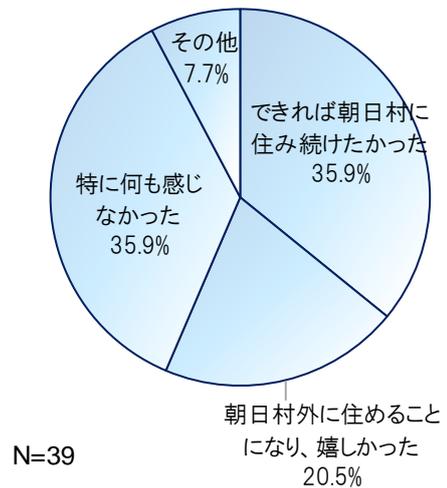
図表 39 転出のきっかけ

項目	人数	割合(%)
就学	4	10.8
就職	3	8.1
転職	2	5.4
転勤(家族含む)	4	10.8
他の地域に家を購入した・建てた	1	2.7
結婚	14	37.8
子どもの就学	0	0.0
親の転居	1	2.7
親の介護など家族の面倒をみるため	3	8.1
その他	5	13.5
合計	37	100.0



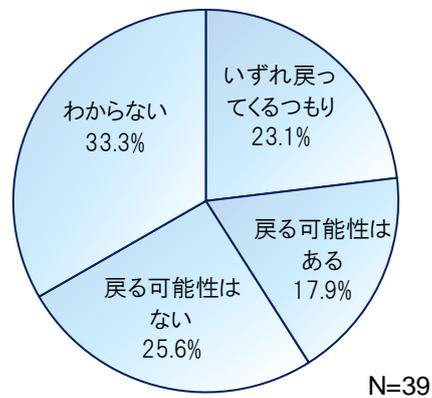
図表 40 転出時の心情

項目	人数	割合(%)
できれば朝日村に住み続けたかった	14	35.9
朝日村外に住めることになり、嬉しかった	8	20.5
特に何も感じなかった	14	35.9
その他	3	7.7
合計	39	100.0



図表 41 朝日村への U ターンの可能性

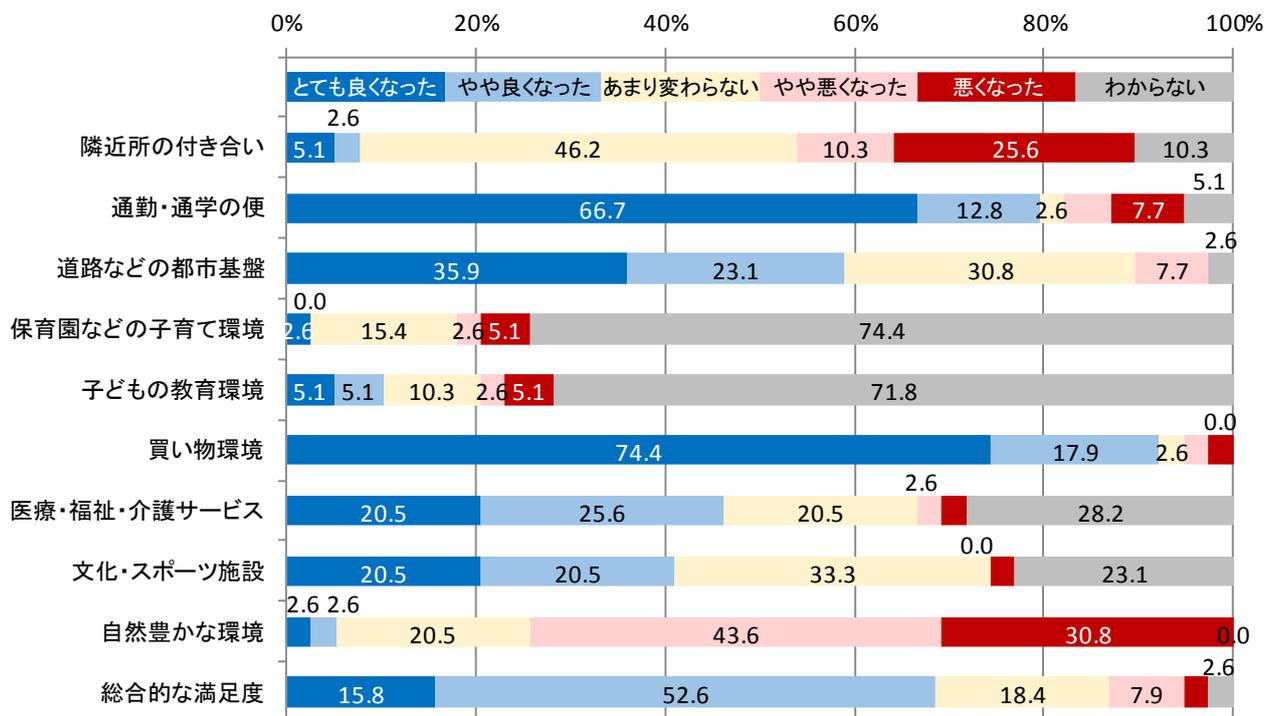
項目	人数	割合(%)
いずれ戻ってくるつもり	9	23.1
戻る可能性はある	7	17.9
戻る可能性はない	10	25.6
わからない	13	33.3
合計	39	100.0



#### (4) 転出後の生活の変化

- 転出後の生活の変化については、「良くなった」と感じている割合（「とても良くなった」「やや良くなった」をあわせた割合）が高い項目は、「買い物環境」「通学・通勤の便」「道路などの都市基盤」「医療・福祉・介護サービス」「文化・スポーツ施設」である
- 一方、悪くなったと感じている割合（「悪くなった」「やや悪くなった」をあわせた割合）が高い項目は「自然豊かな環境」「隣近所の付き合い」である
- 「保育園などの子育て環境」「子どもの教育環境」で「わからない」の割合が高いのは、子どもがいない回答者の割合が多いためと考えられる

図表 42 転出後の生活の変化

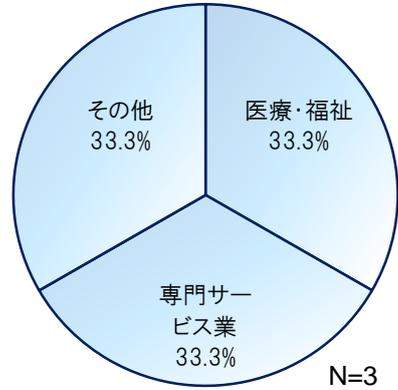


#### (5) 卒業後の進路・就職について（学生のみ）

- 現在就学中の回答者に将来就きたい業種を尋ねたところ「医療・福祉」「専門サービス業」「その他」であった

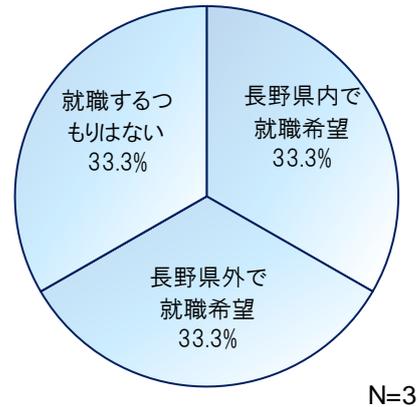
図表 43 将来就きたい業種

項目	人数	割合(%)
農林漁業	0	0.0
製造業	0	0.0
建設業	0	0.0
電気・ガス・水道・熱供給業	0	0.0
情報通信業	0	0.0
運輸業	0	0.0
卸・小売業	0	0.0
金融保険業	0	0.0
不動産業	0	0.0
医療・福祉	1	33.3
専門サービス業	1	33.3
公務	0	0.0
その他	1	33.3
合計	3	100.0



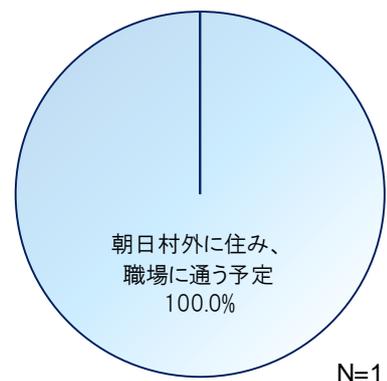
図表 44 就職希望地域

項目	人数	割合(%)
長野県内で就職希望	1	33.3
長野県外で就職希望	1	33.3
その他	0	0.0
就職するつもりはない	1	33.3
合計	3	100.0



図表 45 就職希望地域（長野県内で就職希望している人のみ）

項目	人数	割合(%)
朝日村内に住み、職場に通う予定	0	0.0
朝日村外に住み、職場に通う予定	1	100.0
まだ決めていない	0	0.0
合計	1	100.0

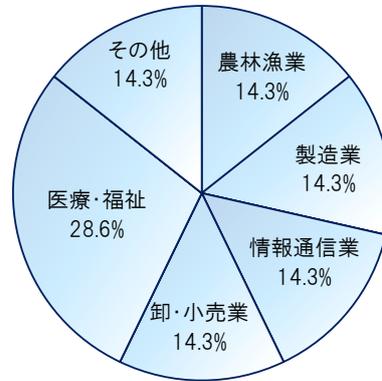


(6) 就労状況について（転出理由が「就職」「転職」および「就学」で現在就業中のみ）

- 転出直後の就労先は「医療福祉」「農林漁業」「製造業」「情報通信業」「卸・小売業」であった
- 長野県内で就職先を探さなかった割合は66.7%であった

図表 46 転出直後の就労先の業種

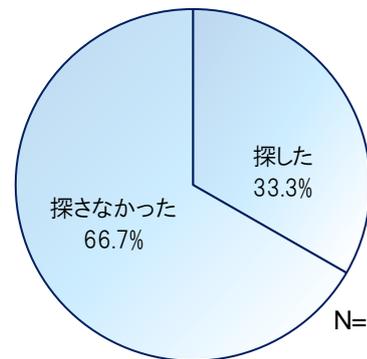
項目	人数	割合(%)
農林漁業	1	14.3
製造業	1	14.3
建設業	0	0.0
電気・ガス・水道・熱供給業	0	0.0
情報通信業	1	14.3
運輸業	0	0.0
卸・小売業	1	14.3
金融保険業	0	0.0
不動産業	0	0.0
医療・福祉	2	28.6
専門サービス業	0	0.0
公務	0	0.0
その他	1	14.3
合計	7	100.0



N=7

図表 47 長野県内で就職先を探したか

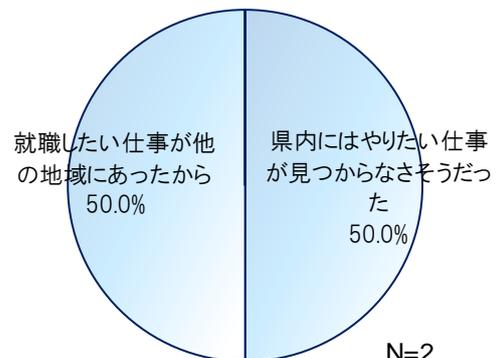
項目	人数	割合(%)
探した	1	33.3
探さなかった	2	66.7
合計	3	100.0



N=3

図表 48 長野県内で就職先を探さなかった理由

項目	人数	割合(%)
県内にはやりたい仕事が見つからなさそうだった	1	50.0
就職したい仕事がある地域があったから	1	50.0
住んでみたい地域があったから	0	0.0
地元を離れたかったから	0	0.0
その他	0	0.0
合計	2	100.0

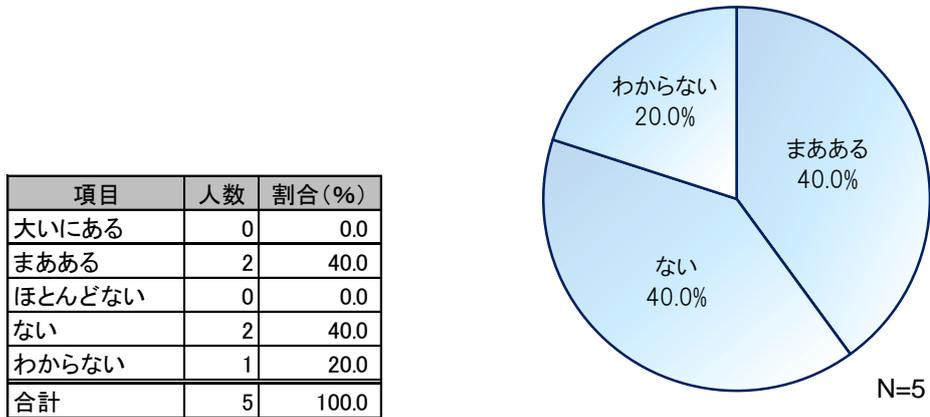


N=2

(7) 転勤の状況について（転出理由が「転勤」のみ）

- 転勤がきっかけで転出したもののうち、転勤により朝日村に戻る可能性が「まあある」40.0%であるが、「ない」「わからない」を踏まえても、戻る可能性は低い

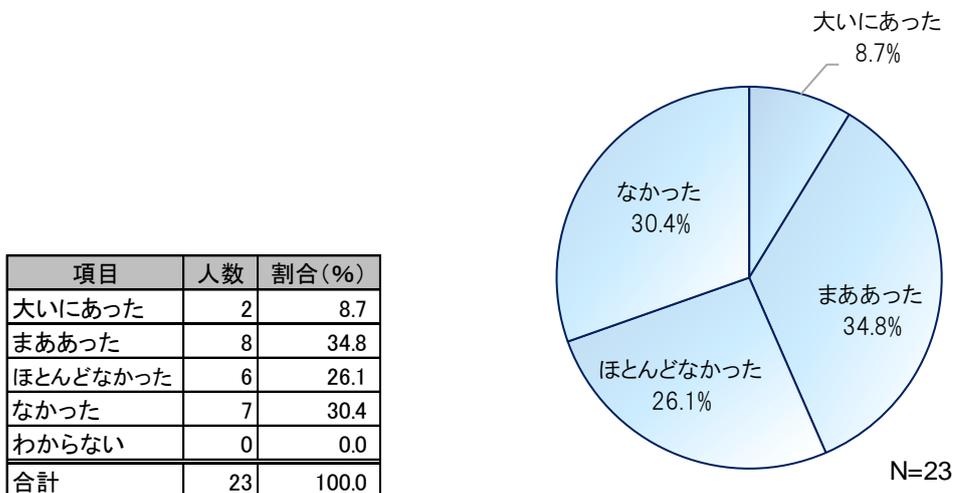
図表 49 転勤により朝日村に戻る可能性



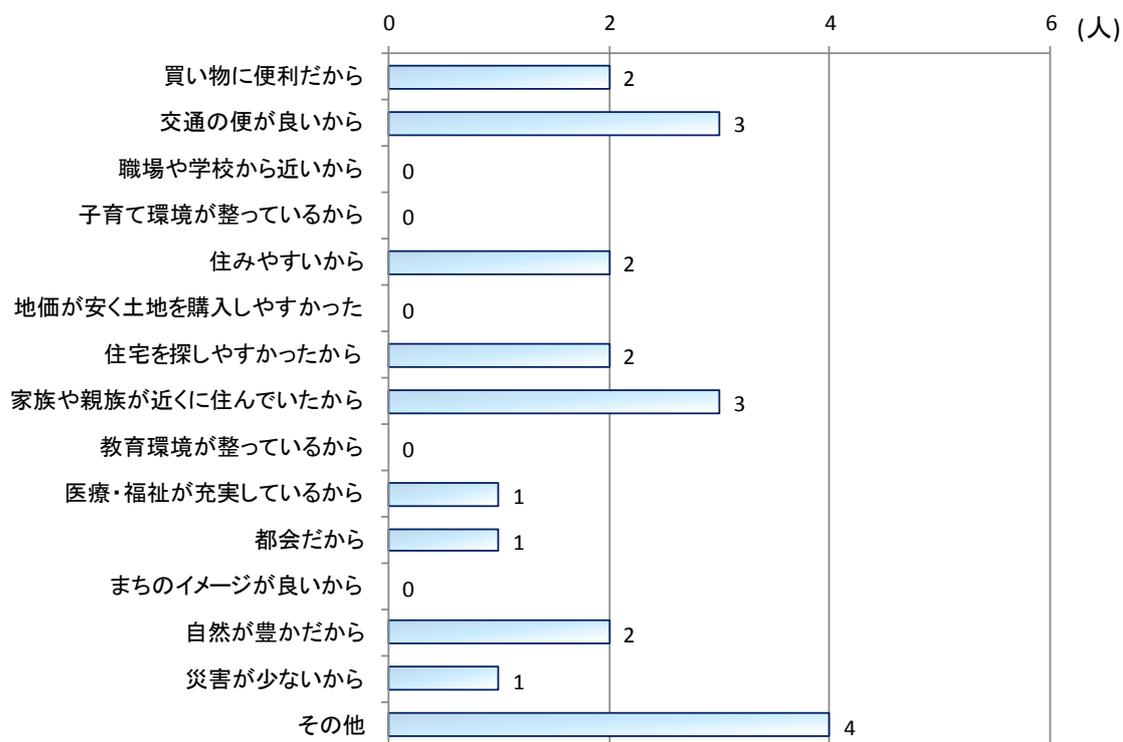
(8) 転出の状況について（転出理由が「他の地域に家を購入した・建てた」「結婚」「子ども就学」「親の転居」「親の介護など家族の面倒をみるため」「その他」のみ）

- 転出の理由で「結婚」「子どもの就学」「親の転居」「親の介護など家族の面倒をみるため」「その他」を選択したものに朝日村に住み続けた可能性を尋ねたところ、可能性があった割合（「大いにあった」「まああった」をあわせた割合）は 43.5%で、可能性がなかった割合（「なかった」「ほとんどなかった」をあわせた割合）を下回った
- 朝日村に住み続けた可能性があったと回答した者に、別市町村に転出した理由を確認したところ「家族や親族が近くに住んでいたから」「交通の便が良いから」と回答した人が多かった

図表 50 朝日村に住み続けた可能性



図表 51 朝日村を選択することができたにも関わらず、転出先の市町村を選んだ理由  
 (朝日村に住み続けた可能性があったと回答した者のみ) 【複数回答】



(9) 朝日村を訪れたことがない人に紹介したい村内の場所やイベント

No.	カテゴリー	件数
1	野俣沢林間キャンプ場	9
2	自然が豊か	8
3	あさひプライムスキー場、スケート場	7
4	蕎麦(もえぎ野、ふじもり)	6
5	お夏まつり	4
6	鉢盛山	3
7	カフェ・シュトラッセ	3
8	水	2
9	新鮮な野菜	2
10	美術館	2

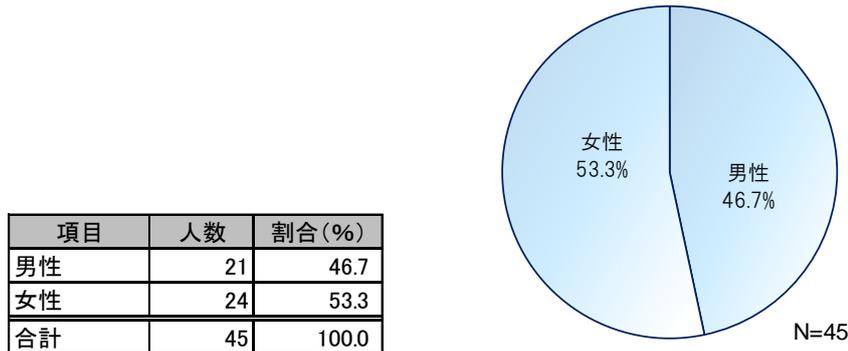
(自由記述にて回答されたおもなものを集計)

## 4. 将来の進路や仕事に関する意識・希望アンケート調査結果

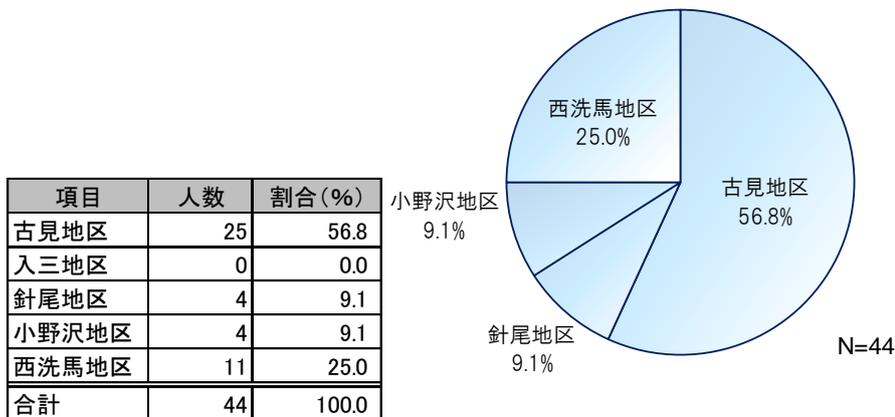
### (1) 回答者の属性

- 回答者の性別は男性が 46.7%、女性が 53.3%と女性の割合がやや多い
- 回答者の居住経験は「15年以上」が 82.2%ともっとも多くなっている

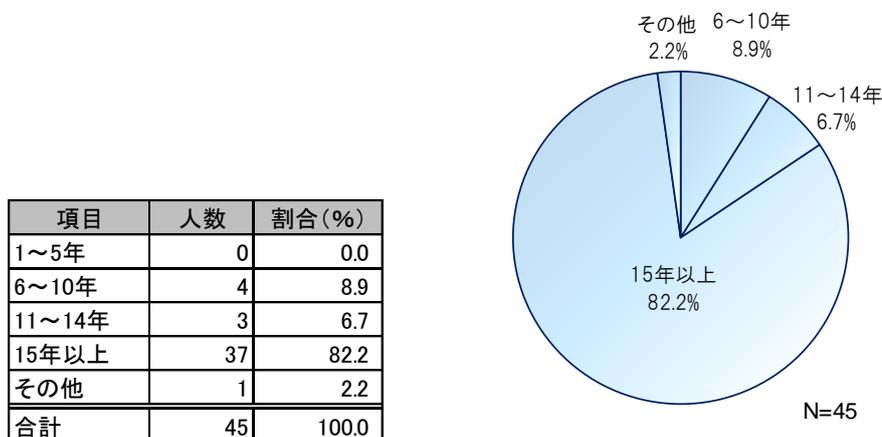
図表 52 性別



図表 53 居住地域



図表 54 現在の地域での居住年数

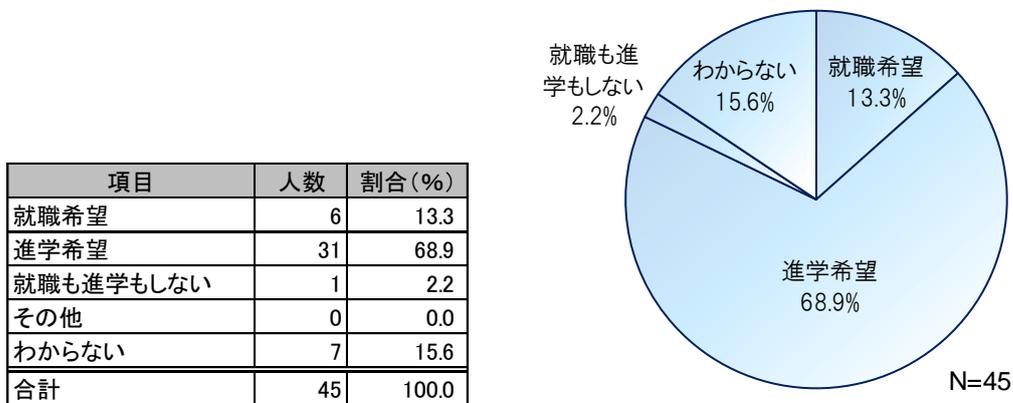


## (2) 進路

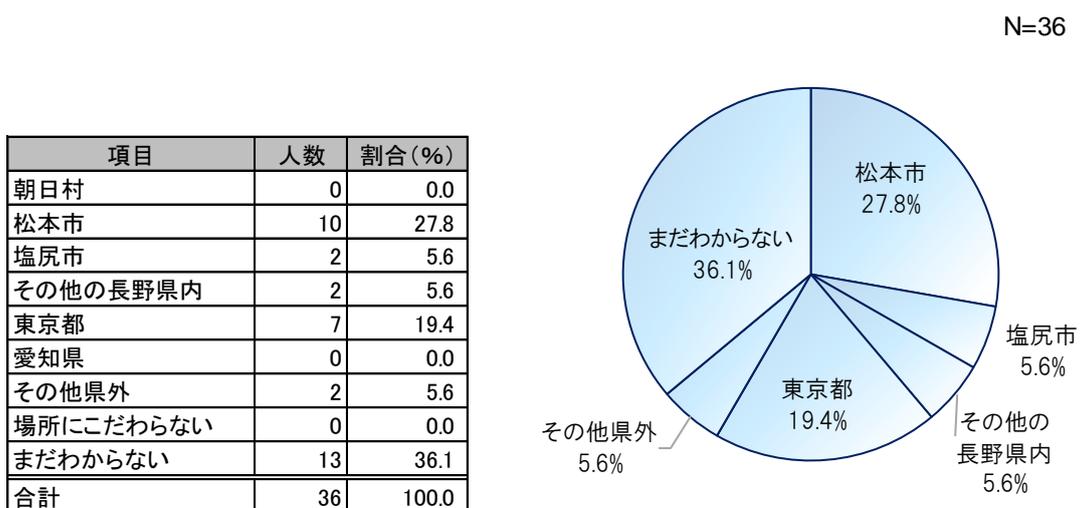
### 1) 希望する進路

- 進路希望については、68.9%が「進学」、13.3%が「就職」を希望している
- 就職・進学の希望地域は、朝日村近郊（「松本市」「塩尻市」の合計）が33.4%、次いで、「東京都」が19.4%、「その他県内」「その他県外」が5.6%となっている。
- 朝日村近郊（「松本市」「塩尻市」のいずれか）での就職・進学を希望する理由は、「行きたい学校や会社がある」が41.7%でもっとも多く、次いで「親に負担をかけたくない」「地元が好き」が続く

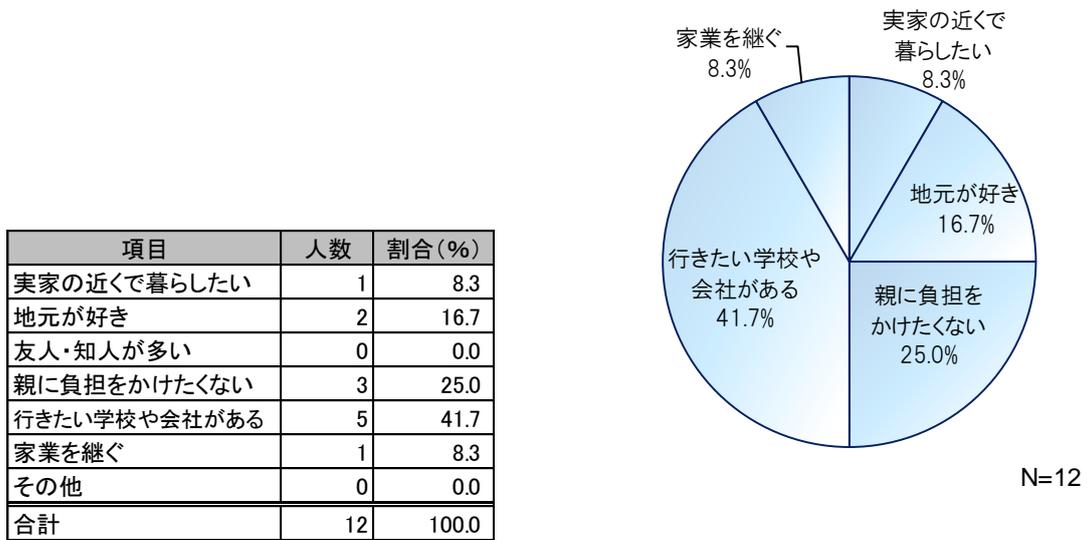
図表 55 希望する進路



図表 56 就職・進学したい場所



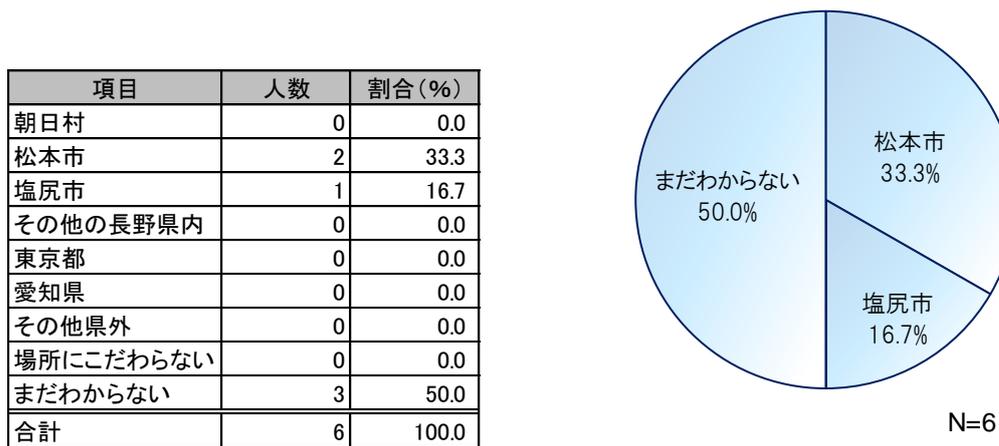
図表 57 朝日村近郊で就職・進学したい理由



2) 就職希望者の進路

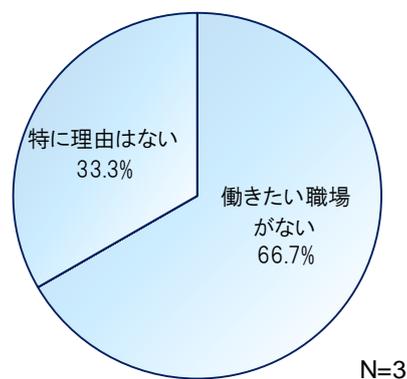
- 就職希望者の就職希望地域は「まだわからない」を除けば朝日村近郊（「松本市」「塩尻市」）であった
- 就職希望先を朝日村近郊以外と選択した理由は、「働きたい職場がない」「特に理由はない」となっている
- 朝日村近郊以外に就職した場合、朝日村に戻ってくる意向がどれだけあるか確認したところ半数が「いずれ戻りたい」と回答している

図表 58 就職希望地域



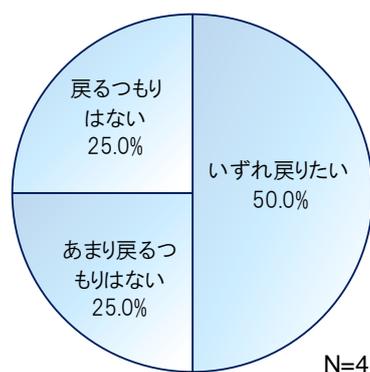
図表 59 朝日村以外に就職したい理由【就職希望先について朝日村近郊以外を選択した者】

項目	人数	割合(%)
働きたい職場がない	2	66.7
都会的な場所に住みたい	0	0.0
都会ではないが、他に住みたい場所がある	0	0.0
今住んでいる地域が不便	0	0.0
今住んでいる地域に魅力がない	0	0.0
地域の間関係がわずらわしい	0	0.0
特に理由はない	1	33.3
その他	0	0.0
合計	3	100.0



図表 60 朝日村に戻る意向【就職希望先について朝日村近郊以外を選択した者】

項目	人数	割合(%)
戻ってきたい	0	0.0
いずれ戻りたい	2	50.0
あまり戻らなつもりはない	1	25.0
戻らなつもりはない	1	25.0
その他	0	0.0
合計	4	100.0

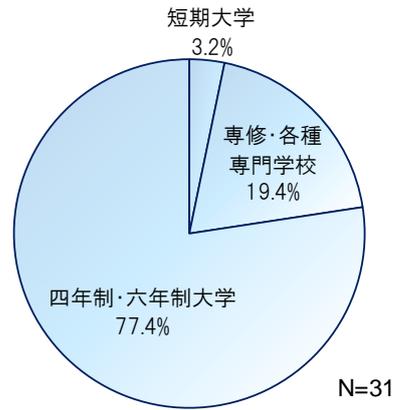


### 3) 進学希望者の進路

- 希望する進学先は、「大学」がもっとも多く 77.4%で、次いで「専修・各種専門学校」が 19.4%であった
- 進学先の希望地域としては、「まだわからない」がもっとも多く 33.3%であった。次いで「松本市」が 30.0%、「東京都」が 23.3%と続く
- 進学先を卒業した後の就職希望地域としては「まだわからない」がもっとも多く 53.7%、次いで「場所にこだわらない」が 17.1%と続く
- 卒業後、就職希望地域について朝日村近郊（「朝日村」「松本市」）が 18.8%、東京都が 15.6%であった
- 就職希望地域について朝日村近郊以外を選択した理由は「特に理由はない」がもっとも多く 36.4%、次いで「働きたい職場がない」 31.8%であった
- 朝日村近郊以外に就職した場合、朝日村に戻る意向については、「戻ってきたい」「いずれ戻りたい」をあわせた割合が 63.0%であった

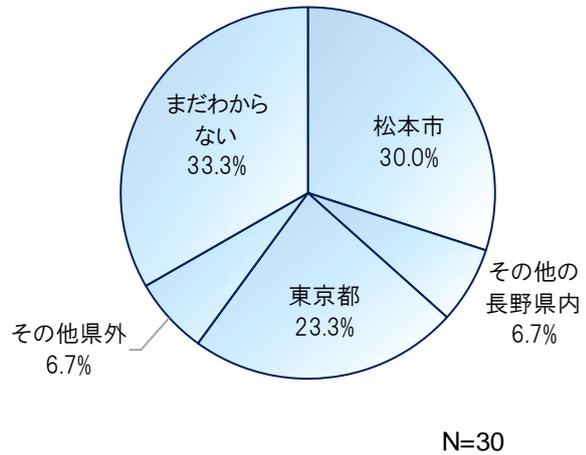
図表 61 希望進学先【進学希望者のみ】

項目	人数	割合(%)
短期大学	1	3.2
専修・各種専門学校	6	19.4
四年制・六年制大学	24	77.4
その他	0	0.0
合計	31	100.0



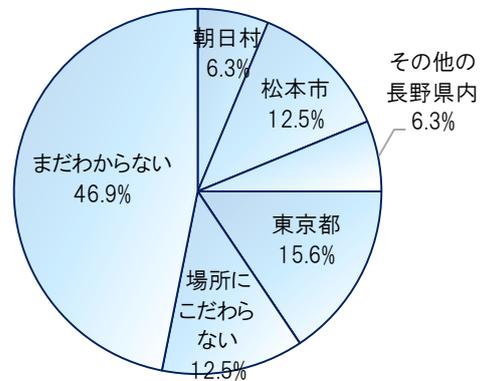
図表 62 進学先の希望地域【進学希望者のみ】

項目	人数	割合(%)
朝日村	0	0.0
松本市	9	30.0
塩尻市	0	0.0
その他の長野県内	2	6.7
東京都	7	23.3
愛知県	0	0.0
その他県外	2	6.7
場所にこだわらない	0	0.0
まだわからない	10	33.3
合計	30	100.0



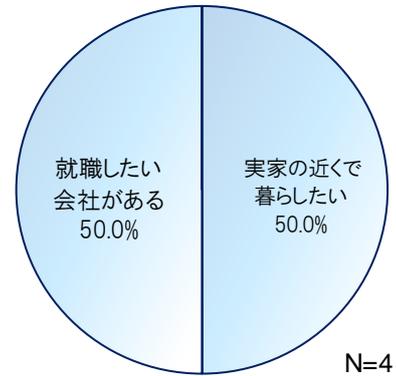
図表 63 進学した学校を卒業後の就職希望地域【進学希望者のみ】

項目	人数	割合(%)
朝日村	2	6.3
松本市	4	12.5
塩尻市	0	0.0
その他の長野県内	2	6.3
東京都	5	15.6
愛知県	0	0.0
その他県外	0	0.0
場所にこだわらない	4	12.5
まだわからない	15	46.9
合計	32	100.0



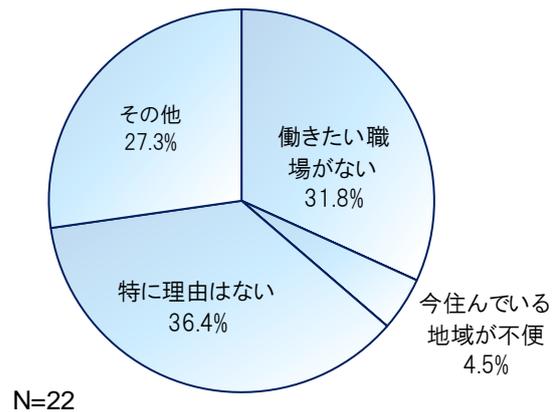
図表 64 朝日村近郊で就職したい理由【卒業後の就職希望地域 朝日村近郊を選択した者】

項目	人数	割合(%)
実家の近くで暮らしたい	2	50.0
地元が好き	0	0.0
友人・知人が多い	0	0.0
親に負担をかけたくない	0	0.0
就職したい会社がある	2	50.0
家業を継ぐ	0	0.0
その他	0	0.0
合計	4	100.0



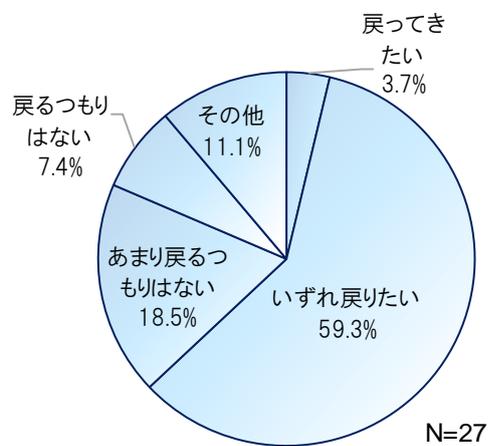
図表 65 朝日村近郊以外に就職したい理由【卒業後の就職希望地域 朝日村近郊以外を選択した者】

項目	人数	割合(%)
働きたい職場がない	7	31.8
都会的な場所に住みたい	0	0.0
都会ではないが、他に住みたい場所がある	0	0.0
今住んでいる地域が不便	1	4.5
今住んでいる地域に魅力がない	0	0.0
地域の人間関係がわずらわしい	0	0.0
特に理由はない	8	36.4
その他	6	27.3
合計	22	100.0



図表 66 朝日村へ戻る意向【卒業後の就職希望地域 朝日村近郊以外を選択した者】

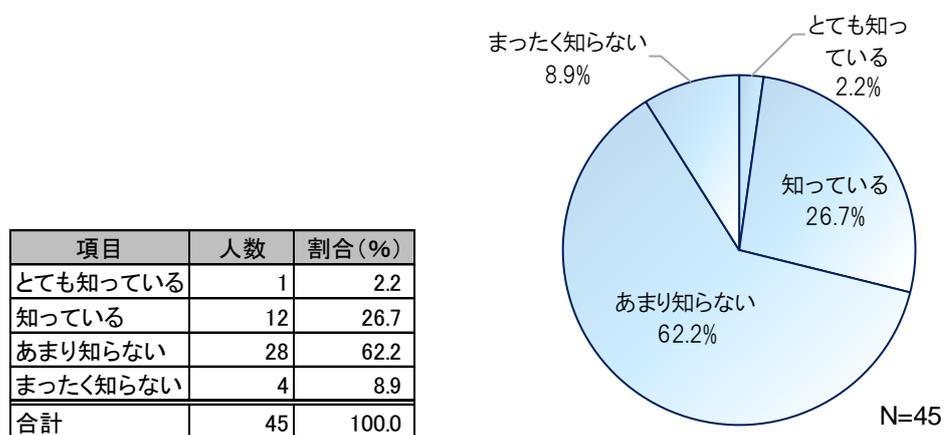
項目	人数	割合(%)
戻ってきたい	1	3.7
いずれ戻りたい	16	59.3
あまり戻らつもりはない	5	18.5
戻らつもりはない	2	7.4
その他	3	11.1
合計	27	100.0



#### 4) 地域の会社、仕事を知っているか

- 地域の会社や仕事の認知度を確認したところ「あまり知らない」が62.2%ともっとも多い。「全く知らない」とあわせると71.1%が地域の会社、仕事を認知していない

図表 67 地域の会社や仕事を知っているか



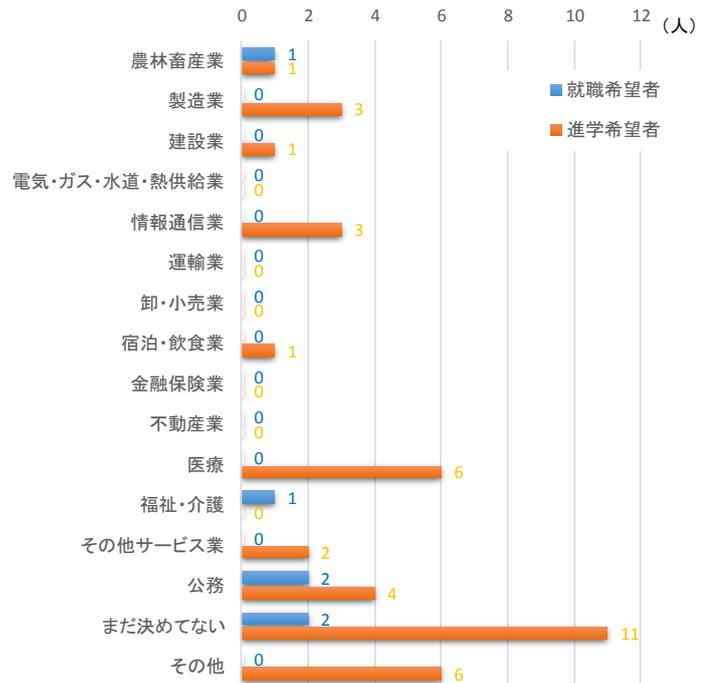
### (3) 仕事や働き方について

#### 1) 将来やりたい仕事の業種

- 将来就きたい仕事の業種を希望する進路別にみると、「まだ決めていない」を除けば、就職希望者では「公務」がもっとも多い
- 進学希望者では、「医療」がもっとも多く、次いで「公務」「製造業」「情報通信系」と続く

図表 68 将来やりたい仕事の業種

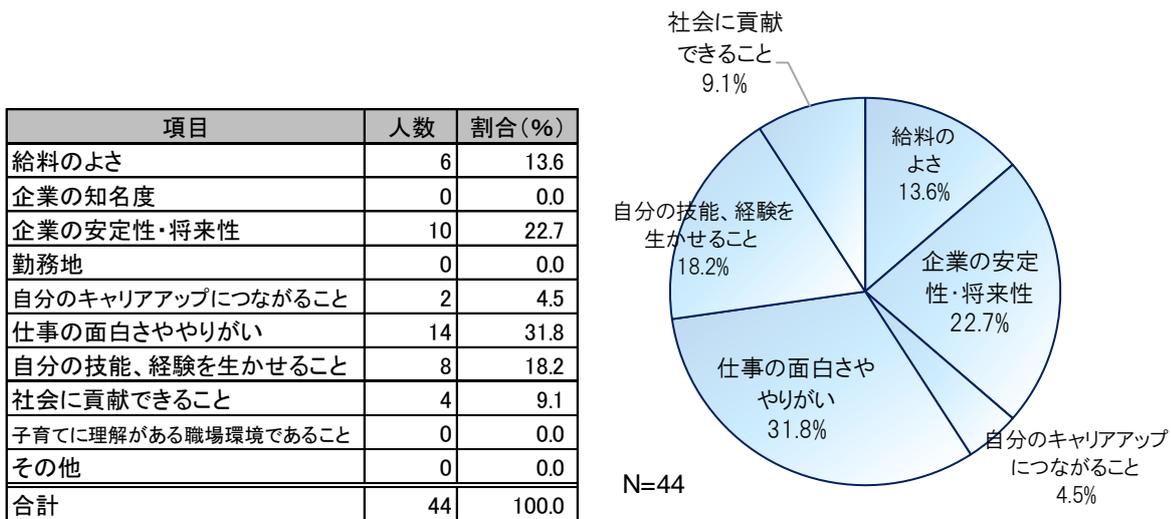
項目	就職希望者	進学希望者
農林畜産業	1	1
製造業	0	3
建設業	0	1
電気・ガス・水道・熱供給業	0	0
情報通信業	0	3
運輸業	0	0
卸・小売業	0	0
宿泊・飲食業	0	1
金融保険業	0	0
不動産業	0	0
医療	0	6
福祉・介護	1	0
その他サービス業	0	2
公務	2	4
まだ決めてない	2	11
その他	0	6
合計	6	38



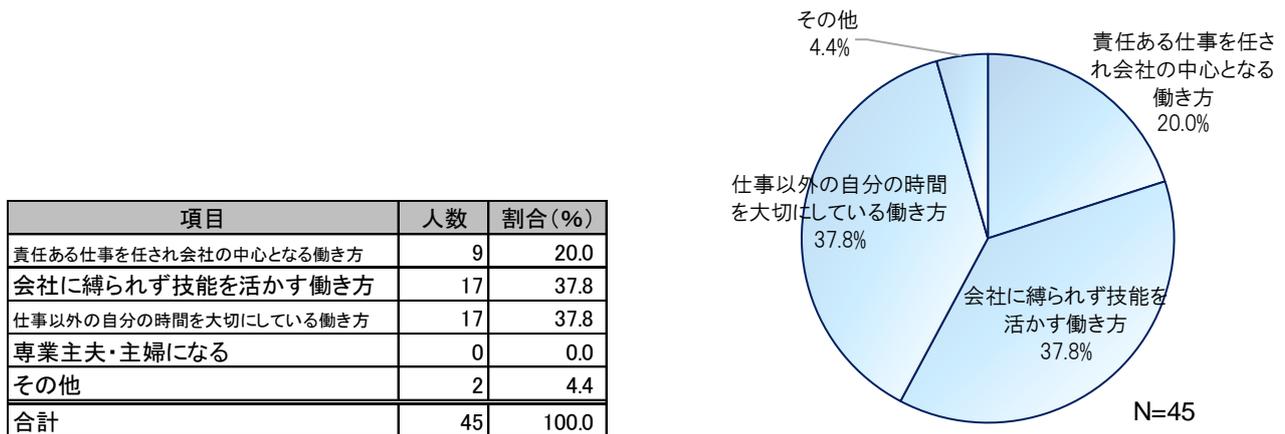
2) 仕事を選ぶ上で重視すること、将来の働き方

- 仕事を選ぶ上で重視することは、「仕事の面白さややりがい」が31.8%でもっとも多くなっている。次いで「企業の安定性・将来性」が22.7%、「自分の技能、経験を生かせること」が18.2%と続いている
- 将来の働き方としては、「会社に縛られず技能を活かす働き方」「仕事以外の自分の時間を大切にしている働き方」がもっとも多く37.8%となっている

図表 69 仕事を選ぶ上で重視すること



図表 70 将来の働き方

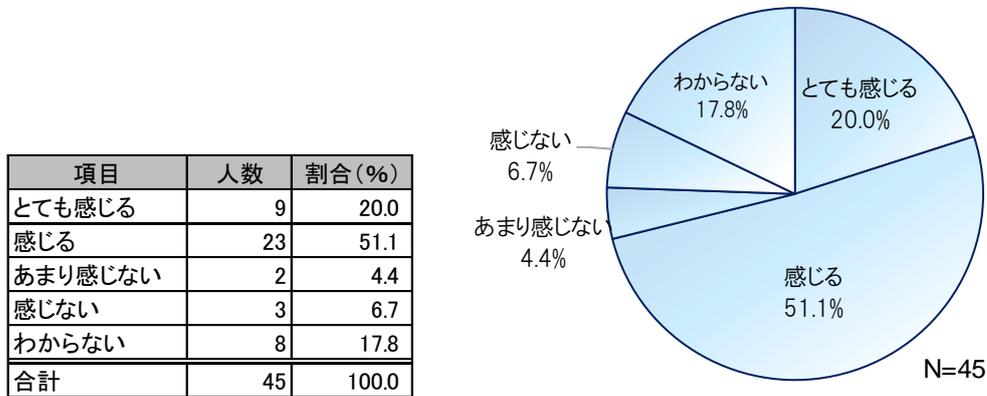


#### (4) 地域や暮らしについて

##### 1) 地域への愛着

- 地域への愛着については、「とても感じる」、「感じる」をあわせた割合が 71.1%であった

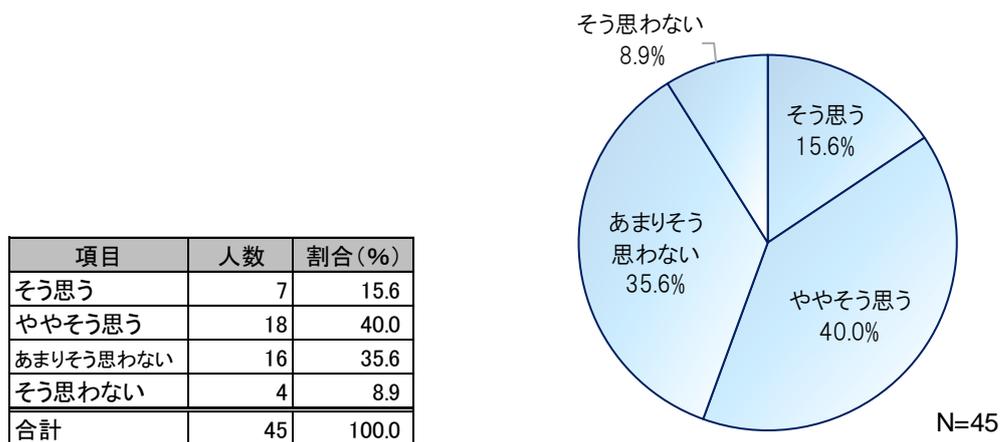
図表 71 地域への愛着



##### 2) 地域の住みやすさ

- 地域の住みやすさについては、「そう思う」、「ややそう思う」をあわせた割合が 55.6%、「そう思わない」「あまりそう思わない」をあわせた割合 44.5%を上回っている

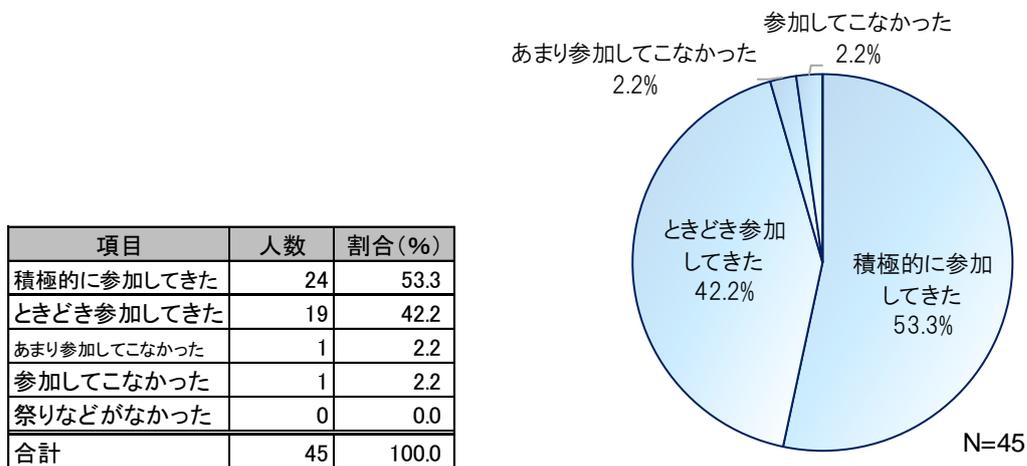
図表 72 住みやすい地域か



### 3) お祭りや地域活動への参加状況

- お祭りや地域活動への参加状況は、「積極的に参加してきた」、「ときどき、参加してきた」あわせた割合が 95.5%となっている

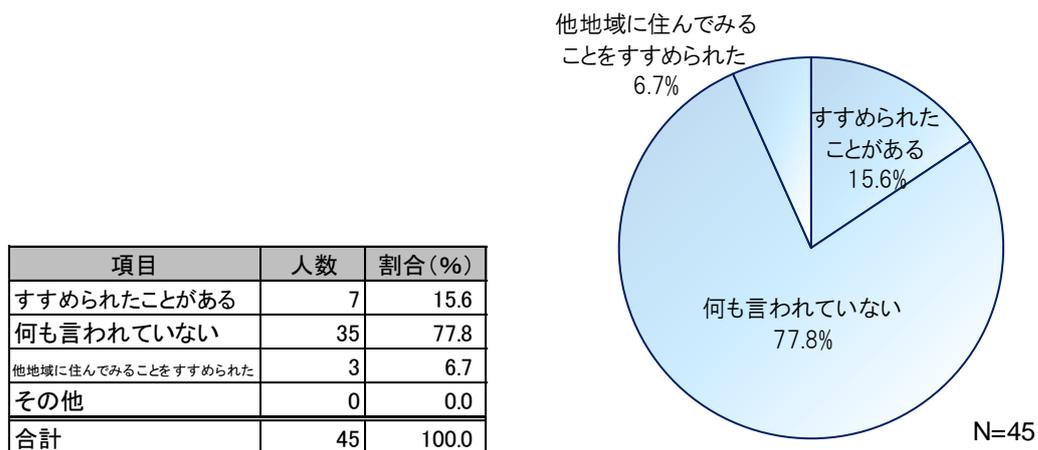
図表 73 地域のお祭りや地域活動への参加状況



### 4) 住んでいる地域に住み続けることを親や親戚にすすめられたことがあるか

- 将来、今住んでいる地域に住み続けることを親や親戚にすすめられたことがあるかについては、「何も言われていない」が 77.8%、「すすめられたことがある」15.6%となっている

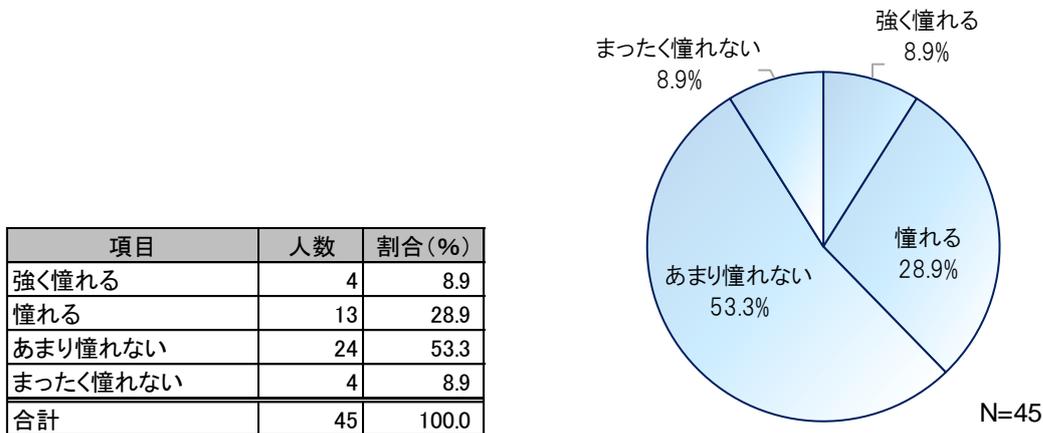
図表 74 将来住み続けることを親や親戚からすすめられたことがあるか



5) 都会で暮らすことへの憧れ

- 都会で暮らすことへの憧れについて、「強く憧れる」、「憧れる」をあわせた割合が 37.8%、「まったく憧れない」、「あまり憧れない」をあわせた割合が 62.2%となっている

図表 75 都会への憧れ



6) 人口減少を実感するか

- 生活の中で、人口減少を実感するかについては、「実感している」「やや実感している」をあわせた割合が 64.5%となっている

図表 76 生活の中での人口減少の実感

